

2009年度

講義計画

桃山学院大学

回

計

義

講

## (6) 教 場

グラウンド、テニスコート、体育館、A Vコーナーなどの教場は授業の進行や雨天等により変更する場合があります。毎時間、総合体育館内掲示板で確認してください。

## (7) 用 具

各種コースの用具は貸与しますが、各自所有の用具を使用することを勧めます。

ただし、シーズンスポーツコースのスノーボード用具等は各自で準備してください。

### 《注意》

更衣は指定された場所で行うとともに、盗難防止のため、利用したコインロッカーは必ず施錠してください。

## 〈欠席の取り扱いについて〉

(1) 欠席した場合は、欠席後1週間以内に、所定の「欠席届」を体育館事務室に提出してください。

(2) 以下の場合、原則として、「健康・スポーツ学演習」での公認欠席を認めます。

- クラブ公式戦、学外での合宿・発表会・演奏会等およびゼミ合宿等による欠席は、所定の「公認欠席届」でのクラブ部長・顧問、ゼミ教員等の証明により、公認欠席扱いとします。
- 4回生以上の就職活動（会社訪問・面接・入社試験）については、キャリアセンターの証明により公認欠席扱いとします。
- 忌引および学校保健法に基づく伝染病罹患については、「公認欠席取扱規程」により、学生課で手続きをしてください。

## 〈授業外における施設・用具の利用について〉

- 授業中の教場には、受講生以外の立ち入りは禁止します。
- 演習受講生の自学自習および一般学生の恒常的なスポーツ活動を実践化奨励のため、施設の開放時間を設けています。用具（シューズを除く）の貸し出しも行いますので、希望者は使用可能場所・時間帯を総合体育館内掲示板等で確認し、体育館事務室窓口に申し出てください。ただし、雨天の場合は屋外で行う授業の代替教場として館内施設を使用しますので、開放は一時中止します。
- 学内施設開放は『一般学生向け 体育施設利用のしおり'09』に記載しています。
- 屋外、屋内とも、貸出用のシューズはありません。
- 総合体育館内は、土足禁止です。
- 総合体育館内およびその周辺での喫煙は禁止しています。指定された場所で喫煙してください。また、館内での飲食も禁止です。飲食物を持ち込まないようにしてください。

### 授業を受講する際の留意事項

1. 第1回目から授業を行います。運動のできる服装に着替えて指定された教場に集合してください。
2. 「ゴルフ」の授業は学外施設で行いますが、第1回目のみ、体育館内で行います。運動のできる服装に着替えて指定された場所（当日掲示にて案内します）に集合してください。必ず体育館シューズを持参してください。

3. シューズは屋内、屋外種目とも、自分のものを持参してください。貸出用はありません。
4. 「スノースポーツ」は秋学期集中科目です。したがって、春学期は授業を行いません。（この科目を履修した者は、春学期開講の他の「健康・スポーツ学演習」は履修できません。）
5. 更衣室にはコインロッカーを設置しています。盗難防止のため必ずこのロッカーを利用し、施錠してください。開錠時に硬貨は戻ってきます。

# 健康・スポーツ学演習 (02~08生対象)

- ★ 以下の表に掲げたクラスより、希望するクラス番号を選択し予備登録してください。
- ★ 02~07生は春学期と秋学期の2科目同時履修(ペア履修)となります。  
※ 必ず各学期とも同一種目かつ同一曜時のものを選んで申し込みをしてください。  
※ 291・292(スノースポーツ)のみ02~08生とも秋学期の2科目同時履修(ペア履修)となります。
- ★ 08生は春学期のみの履修、または秋学期のみの履修ができます。  
ただし、122・222(サッカー)は必ず2科目同時履修して下さい。
- ★ 第1希望から第5希望まで記入してください。抽選方式により行います。  
※ 必ず指定の予備登録申請用紙に記入し、期間内に申し込みをしてください。
- ★ 各クラスの概要については、講義計画を参照してください。
- ★ 122・222(サッカー;野田)はガイダンスを行いますので必ず出席して下さい。  
2009年3月19日(木) 15:45 体育館内武道場集合

か  
行

【健康・スポーツ学演習 [2]】 (2009春・2009秋) <各定員は新2~4回生を含む定員となります>

【春学期】

クラス	担当者	曜時	学期	種目	定員
101	野田 浩之	月1	春学期	バスケットボール	36
102	野田 浩之	月2	春学期	バスケットボール	36
103	吉井 泉	木2	春学期	バスケットボール	36
104	眞来 省二	金2	春学期	バスケットボール	36
111	藤木 泰治	月1	春学期	バドミントン	32
112	藤木 泰治	火3	春学期	バドミントン	32
113	松浦 義昌	水2	春学期	バドミントン	32
114	吉井 泉	木1	春学期	バドミントン	32
115	志水 正俊	金1	春学期	バドミントン	32
21	藤木 泰治	月2	春学期	サッカー	36
22	野田 浩之	水4	春学期	サッカー	36
23	松本 直也	金2	春学期	サッカー	36
31	末野 幹敏	月2	春学期	テニス	28
32	松本 直也	火3	春学期	テニス	28
33	前山 直	水2	春学期	テニス	28
34	末野 幹敏	木1	春学期	テニス	28
35	今西 俊次	金2	春学期	テニス	28
41	藤木 泰治	火1	春学期	室内サッカー	30
42	高 成廈	水2	春学期	室内サッカー	30
43	高 成廈	木1	春学期	室内サッカー	30
46	前山 直	水3	春学期	ソフトボール	30
51	末野 幹敏	月4	春学期	卓球	36
52	松本 直也	火2	春学期	卓球	36
53	濱口 雅行	水2	春学期	卓球	36
54	前山 直	木1	春学期	卓球	36
55	高 成廈	金1	春学期	卓球	36
56	眞来 省二	金3	春学期	卓球	36
61	見正 秀基	火3	春学期	バレーボール	36
62	松浦 義昌	水1	春学期	バレーボール	36
66	濱口 雅行	水3	春学期	水泳	28
67	今西 俊次	金3	春学期	水泳	28
71	前山 直	木2	春学期	キンボール	30
76	児玉 公正	金1	春学期	軟式野球	30
77	児玉 公正	金2	春学期	軟式野球	30
81	竹内 靖子	月3	春学期	ニューコンセプトスポーツ	30
82	前山 直	木3	春学期	ニューコンセプトスポーツ	30
83	高 成廈	木2	春学期	ゴルフ	27
85	高橋 ひとみ	月3	春学期	エアロビクス	35
86	児玉 公正	金3	春学期	エアロビクス	35

【秋学期】

クラス	担当者	曜時	学期	種目	定員
201	野田 浩之	月1	秋学期	バスケットボール	36
202	野田 浩之	月2	秋学期	バスケットボール	36
203	吉井 泉	木2	秋学期	バスケットボール	36
204	眞来 省二	金2	秋学期	バスケットボール	36
211	藤木 泰治	月1	秋学期	バドミントン	32
212	藤木 泰治	火3	秋学期	バドミントン	32
213	松浦 義昌	水2	秋学期	バドミントン	32
214	吉井 泉	木1	秋学期	バドミントン	32
215	志水 正俊	金1	秋学期	バドミントン	32
221	藤木 泰治	月2	秋学期	サッカー	36
222	野田 浩之	水4	秋学期	サッカー	36
223	松本 直也	金2	秋学期	サッカー	36
231	末野 幹敏	月2	秋学期	テニス	28
232	松本 直也	火3	秋学期	テニス	28
233	前山 直	水2	秋学期	テニス	28
234	末野 幹敏	木1	秋学期	テニス	28
235	今西 俊次	金2	秋学期	テニス	28
241	藤木 泰治	火1	秋学期	室内サッカー	30
242	高 成廈	水2	秋学期	室内サッカー	30
243	高 成廈	木1	秋学期	室内サッカー	30
246	前山 直	水3	秋学期	ソフトボール	30
251	末野 幹敏	月4	秋学期	卓球	36
252	松本 直也	火2	秋学期	卓球	36
253	濱口 雅行	水2	秋学期	卓球	36
254	前山 直	木1	秋学期	卓球	36
255	高 成廈	金1	秋学期	卓球	36
256	眞来 省二	金3	秋学期	卓球	36
261	見正 秀基	火3	秋学期	バレーボール	36
262	松浦 義昌	水1	秋学期	バレーボール	36
266	濱口 雅行	水3	秋学期	水泳	28
267	今西 俊次	金3	秋学期	水泳	28
271	前山 直	木2	秋学期	キンボール	30
276	児玉 公正	金1	秋学期	軟式野球	30
277	児玉 公正	金2	秋学期	軟式野球	30
281	竹内 靖子	月3	秋学期	ニューコンセプトスポーツ	30
282	前山 直	木3	秋学期	ニューコンセプトスポーツ	30
283	高 成廈	木2	秋学期	ゴルフ	27
285	高橋 ひとみ	月3	秋学期	エアロビクス	35
286	児玉 公正	金3	秋学期	エアロビクス	35
291	今西 俊次	火2	秋学期	スノースポーツ	35
292	今西 俊次	土3	秋学期	スノースポーツ	35

科目名		クラス	講義区分
健康・スポーツ学演習		[2]	- 2009 春
健康・スポーツ学演習		[2]	- 2009 秋
野田浩之	野田浩之	101	<春>
吉真	井来	102	<春>
野	省	103	<春>
野	浩	104	<春>
吉	浩	201	<秋>
真	之	202	<秋>
	泉	203	<秋>
	二	204	<秋>
			2 単位

#### 【講義概要】

本演習では、学校教育の中でも小学校から取り入れられ、私たちにとっても身近な競技となったバスケットボールの特性を理解し、実技を通して必要な技能を習得します。さらに実際にゲームを通じて、スポーツマンシップやルールについて理解を深めていただきたいと思います。

#### 【学習目標】

本演習は、バスケットボールを通してチームメートと協力することや、自らが積極的にスポーツを楽しむ精神を学んでいただきたいと思います。

#### 【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ファンドリル・身体ならし
- 第3回 ボールコントロール
- 第4回 シュート
- 第5回 パス
- 第6回 ボールのもらい方
- 第7回 パス&ランプレイ
- 第8回 スクリーンプレイ
- 第9回 トランジション
- 第10回 リーグ戦①
- 第11回 リーグ戦②
- 第12回 リーグ戦③
- 第13回 リーグ戦④
- 第14回 まとめ

#### 【成績評価の方法】

出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

#### 【参考文献】

適宜指示する。(必要に応じて資料を配布する。)

科目名		クラス	講義区分
健康・スポーツ学演習		[2]	- 2009 春
健康・スポーツ学演習		[2]	- 2009 秋
藤木泰治	藤木泰治	111	<春>
藤木泰治	木浦義	112	<春>
松吉志	木浦義	113	<春>
藤	正	114	<春>
松	泰	115	<春>
吉	義	211	<秋>
志	義	212	<秋>
	俊	213	<秋>
	治	214	<秋>
	昌	215	<秋>
			2 単位

#### 【講義概要】

バドミントンは「レクリエーションスポーツ」「生涯スポーツ」として誰もが気軽に親しみやすいスポーツです。本演習では身体活動の重要性、ゲームを通しての自己表現およびコミュニケーションの大切さを学びます。

#### 【学習目標】

バドミントンの特性を知り、身体を動かすことの大切さやゲームの楽しさを体験する。また、バドミントンを生活の中に取り入れ心身を豊かにし、生涯スポーツとして実践していく能力と習慣を養う。

#### 【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 基礎技術(クリアー、ドライブ)の習得とシングルの簡易ゲーム1
- 第3回 基礎技術(クリアー、ドライブ)の習得とシングルの簡易ゲーム2
- 第4回 基礎技術(カット、ヘアーピン)の習得とシングルの簡易ゲーム1
- 第5回 基礎技術(カット、ヘアーピン)の習得とシングルの簡易ゲーム2
- 第6回 基礎技術(スマッシュ、サービス)の習得とシングルの簡易ゲーム1
- 第7回 基礎技術(スマッシュ、サービス)の習得とシングルの簡易ゲーム2
- 第8回 基礎技術(フットワーク)の習得とシングルの簡易ゲーム1
- 第9回 基礎技術(フットワーク)の習得とシングルの簡易ゲーム2
- 第10回 戦術(サイド・パイ・サイド)の学習と理解。ダブルスのゲーム1
- 第11回 戦術(サイド・パイ・サイド)の学習と理解。ダブルスのゲーム2
- 第12回 戦術(トップ・アンド・バック)の学習と理解。ダブルスのゲーム
- 第13回 戦術(ローテーション)の学習と理解。ダブルスのゲーム
- 第14回 まとめ(リーグ戦)

#### 【成績評価の方法】

出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

#### 【参考文献】

適宜指示する。(必要に応じて資料を配布する。)

科目名 クラス 講義区分		
健康・スポーツ学演習 [2] - 2009 春 健康・スポーツ学演習 [2] - 2009 秋		
藤 木 泰 治 松 本 直 也 藤 木 泰 治 松 本 直 也	121 <春> 123 <春> 221 <秋> 223 <秋>	2 単位

#### 【講義概要】

サッカーは世界中で多くの人々に楽しませているスポーツです。ボールひとつあれば「いつでも、どこでも、気軽に」楽しむことができます。

本演習は、ゲームを中心に展開し、楽しく真剣にゲームを行うことを目的とします。サッカーをより楽しむためには技術や戦術の習得も必要となりますし、チームメイトとのコミュニケーションもゲームにおいて大切な要素のひとつです。よってそれらの点を重視し授業を展開します。また、同時にルールや審判法の理解と実践も行います。

#### 【学習目標】

学習目標は以下の通りである。

1. 積極的、自発的な授業への参加。
2. 積極的なコミュニケーション。
3. 基本技術の習得。
4. 基本戦術の理解と習得。
5. 審判法の理解と実践。

#### 【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション  
第2回 ボールフィーリング①  
第3回 ボールフィーリング②  
第4回 スモールサイドゲームと有効な視野の確保とパスの優先順位  
第5回 スモールサイドゲームコンビネーションプレー  
第6回 スモールサイドゲームとプレーの原則  
第7回 スモールサイドゲームとゴールを意識したプレー  
第8回 審判法の理解と実践  
第9回 リーグ戦①  
第10回 リーグ戦②  
第11回 リーグ戦③  
第12回 リーグ戦④  
第13回 リーグ戦⑤  
第14回 まとめ

#### 【成績評価の方法】

出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

#### 【参考文献】

適宜指示する。(必要に応じて資料を配布する。)

科目名 クラス 講義区分		
健康・スポーツ学演習 [2] - 2009 春 健康・スポーツ学演習 [2] - 2009 秋		
野 田 浩 之	122 <春> 222 <秋>	2 単位

#### <春学期>

##### 【講義概要】

本演習では、『指導する』という角度からサッカーに関わってもらいたいと思います。サッカーの指導に必要な技術の習得・戦術の理解はもちろん指導理論・指導方法を学習します。そして実際に小学生を対象に指導の場(サッカー教室)を設けて指導実践を行います。指導実践後はレポートを提出していただき、評価および次回以降の演習の参考としたいと思います。

##### 【学習目標】

本演習は、サッカーの指導技能の習得・向上を目標としています。さらに実際に地域の小学生を指導するなかで、社会生活において必要なコミュニケーションスキルを向上させ、地域貢献の精神を育てていただきたいと思います。

##### 【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション  
第2回 コーチ学①  
第3回 コーチ学②  
第4回 発育・発達論  
第5回 暑熱対策  
第6回 プレーの原則  
第7回 M-T-M法  
第8回 指導実践のプランニング  
第9回 指導実践のリハーサル  
第10回 指導実践①  
第11回 指導実践②  
第12回 指導実践③  
第13回 指導実践④  
第14回 まとめ

##### 【成績評価の方法】

出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

##### 【参考文献】

適宜指示する。(必要に応じて資料を配布する。)

##### 【備考】

予備登録の前に演習概要についてガイダンスを行います。履修希望者は、必ず下記のガイダンスに出席してください。出席しない場合、予備登録ができません。

【ガイダンス日程：2009年3月19日、場所：総合体育館武道場、時間：15時45分

またサッカー教室は5月～11月の開催を予定しているため、秋学期も継続して履修が可能な学生のみ受講可能となります。

#### <秋学期>

##### 【講義概要】

本演習では、『指導する』という角度からサッカーに関わってもらいたいと思います。サッカーの指導に必要な技術の習得・戦術の理解はもちろん指導理論・指導方法を学習します。そして実際に小学生を対象に指導の場を設けて指導実践を行います。春学期から継続して行われるサッカー教室では指導の質を深めていきたいと思っています。さらに実際の試合を撮影した映像によるゲーム分析なども行います。

##### 【学習目標】

本演習は、サッカーの指導技能の習得・向上を目標としています。さらに実際に地域の小学生を指導するなかで、社会生活において必要なコミュニケーションスキルを向上させ、地域貢献の精神を育てていただきたいと思います。

##### 【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション  
第2回 指導実践①  
第3回 指導実践②  
第4回 指導実践③  
第5回 指導実践④  
第6回 指導実践⑤

- 第7回 個人戦術・攻撃
- 第8回 個人戦術・守備
- 第9回 指導実践⑥
- 第10回 ゲーム分析①
- 第11回 ゲーム分析②
- 第12回 ゲーム分析③
- 第13回 サッカーにおける戦術史
- 第14回 まとめ

**【成績評価の方法】**

出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

**【参考文献】**

適宜指示する。(必要に応じて資料を配布する。)

**【備考】**

予備登録の前に演習概要についてガイダンスを行います。履修希望者は、必ず下記のガイダンスに出席してください。出席しない場合、予備登録ができません。

【ガイダンス日程：2009年3月19日、場所：総合体育館武道場、時間：15時45分

またサッカー教室は5月～11月の開催を予定しているため、秋学期も継続して履修が可能な学生のみ受講可能となります。

科目名		クラス	講義区分		
健康・スポーツ学演習		[2]	- 2009 春		
健康・スポーツ学演習		[2]	- 2009 秋		
末松	野本	幹直	敏也	131 <春>	2 単位
前未	山本	直	也	132 <春>	
今	野	直	也	133 <春>	
	山	幹	敏	134 <春>	
	野	俊	次	135 <春>	
	西	幹	敏	231 <秋>	
	野	直	也	232 <秋>	
	山	直	也	233 <秋>	
	野	幹	敏	234 <秋>	
	西	俊	次	235 <秋>	

**【講義概要】**

テニスはボールがコート外にアウトするか、相手コートにボールを返せなかった時にポイントが決まります。つまりテニスは、ボールを相手コートに返し続けることが求められるスポーツです。相手コートにボールを返し続けるためには、からだとラケットをコントロールし、打ち返されたボールのコース、回転、弾み具合等を予測する必要があります。

ボールを打ち合うことは、ボールを介した対話ともいえます。対話をうまく成立させるためには、くり返し練習すること、相手を認め、ルールを理解し、マナーを身につけることが求められます。

テニスコートでのマナーやエチケットは、われわれが社会生活をスムーズに送るために求められる要素でもあります。

**【学習目標】**

生涯スポーツとしてテニスを楽しめるよう、スキルの獲得、ルールの理解と審判方法等の習得を目指します。マナーやルールを大切に課題を明確に練習やゲームに取り組みたいものです。

**【講義計画】**

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ラケットイング、グリップ
- 第3回 ストローク練習 (飛距離と滞空時間)
- 第4回 ストローク練習 (コース、正確さ)
- 第5回 ストローク練習 (スプリットステップ、フットワーク)
- 第6回 ストローク練習 (予測、判断)
- 第7回 ストローク練習 (ボールの回転と弾み具合)
- 第8回 簡易ゲーム
- 第9回 ストローク練習
- 第10回 シングルスゲーム
- 第11回 ダブルスゲーム
- 第12回 ダブルスの陣形
- 第13回 ダブルスゲーム
- 第14回 まとめ

**【成績評価の方法】**

出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

**【参考文献】**

適宜指示する。(必要に応じて資料を配布する。)



科目名	クラス	講義区分
健康・スポーツ学演習	[2]	- 2009 春
健康・スポーツ学演習	[2]	- 2009 秋
藤高 高藤 高	木 木 高	泰成 成泰 成
治 度 慶 治 度 慶	141 142 143 241 242 243	<春> <春> <春> <秋> <秋> <秋>
		2 単位

【講義概要】

サッカーは多くの仲間を作り、世界共通のスポーツ文化としてあらゆる国々で楽しまれています。室内サッカーはメインアリーナで実施します。1チームの人数を6～7人に編成し、リーグ戦形式で展開します。

サッカーはチームが一体になってゴールを目指すという「共通の目的」を持って楽しむスポーツである。個人戦術をベースに、ゴールするために視野の広いルックアップの姿勢から攻守における切り替えの速さと状況判断・状況認識が大切である。チームプレーを常に意識しながら、室内サッカーのゲームにチャレンジしてもらいます。

【学習目標】

M-T-M方式で展開する。M-T-MとはMatch-Training- Matchのことで、その意味は実際に試合をすることによって発生した課題に対して焦点を絞り、その局面を重点的に練習した上で再度ゲームに戻すトレーニング方法です。課題は基本技術からチーム戦術までさまざまなのが想定されます。課題を探し、克服していくことが重要です。室内サッカーを生涯スポーツとして生活の中に取り入れ心豊かに育むことをねらいとする。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 チーム編成のためのゲーム① 5対5
- 第3回 チーム編成のためのゲーム② 5対5
- 第4回 リーグ戦
- 第5回 リーグ戦
- 第6回 リーグ戦
- 第7回 リーグ戦
- 第8回 リーグ戦
- 第9回 リーグ戦
- 第10回 リーグ戦
- 第11回 リーグ戦
- 第12回 リーグ戦
- 第13回 リーグ戦
- 第14回 まとめ

【成績評価の方法】

出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

【参考文献】

適宜指示する。(必要に応じて資料を配布する。)

科目名	クラス	講義区分
健康・スポーツ学演習	[2]	- 2009 春
健康・スポーツ学演習	[2]	- 2009 秋
前山	直	146<春> 246<秋>
		2 単位

【講義概要】

本演習では一人一人が課題を見つけ、目標を設定し、積極的な態度で「ソフトボール」することを学ぶ。そして、技術の習得やゲームを通じて「生きがいがづくり」、「健康づくり」、「仲間づくり」等について考える。

【学習目標】

- (1)生きがいがづくり  
生涯スポーツとして実践するために必要な知識と技術を身につける。
- (2)健康づくり  
運動が身体に及ぼす影響を理解し、健康に関する関心を高め、自己管理能力を身につける。
- (3)仲間づくり  
チームワークの必要性を理解し、心の健康について考える。

【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 基本技術の確認と練習（守備とバッティング）
- 第3回 チーム編成とチーム別練習
- 第4回 ゲーム形式の練習
- 第5回 チーム
- 第6回 チーム別課題練習
- 第7回 ゲーム（連携プレー練習、役割について確認）
- 第8回 ゲーム1
- 第9回 ゲーム2
- 第10回 ゲーム3
- 第11回 ゲーム4
- 第12回 ゲーム5
- 第13回 ゲーム6
- 第14回 まとめ

【成績評価の方法】

出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

【参考文献】

適宜指示する。(必要に応じて資料を配布する。)

科目名 クラス 講義区分		
健康・スポーツ学演習 [2] - 2009 春		
健康・スポーツ学演習 [2] - 2009 秋		
末松 野 幹 敏 濱本 直 也 前山 口 行 高直 雅 直 真省 慶 二 末成 敏 松野 幹 也 濱野 省 行 前本 直 直 高口 口 行 真省 慶 二 来 来 来	151 <春> 152 <春> 153 <春> 154 <春> 155 <春> 156 <春> 251 <秋> 252 <秋> 253 <秋> 254 <秋> 255 <秋> 256 <秋>	2 単位

#### 【講義概要】

卓球は老若男女を問わず多くの人たちを楽しませているスポーツです。本演習では、ゲームを楽しむためのストロークやサーブなどの基本的技能を習得しながら、今ある技術でシングルス、ダブルス、ミックスダブルスといったゲームを楽しみながら行うことを目的とします。また、卓球の持つ楽しさを感じることで生涯スポーツとしての卓球の魅力に触れていければと思います。積極的に参加できる学生の履修を希望します。

#### 【学習目標】

学習目標は以下の通りである。

1. 積極的、自発的な授業への参加。
2. 積極的なコミュニケーション。
3. シングルスに必要な基本技術の習得。
4. ダブルスに必要な基本戦術の習得。
5. 審判法の理解と実践。

#### 【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ラケットとボールに慣れる①
- 第3回 ラケットとボールに慣れる②
- 第4回 ラリーをしてみる
- 第5回 ボールの回転とコース①
- 第6回 ボールの回転とコース②
- 第7回 サーブの習得
- 第8回 ダブルスのゲームを楽しむ①
- 第9回 ダブルスのゲームを楽しむ②
- 第10回 ダブルスのゲームを楽しむ③
- 第11回 シングルのゲームを楽しむ①
- 第12回 シングルのゲームを楽しむ②
- 第13回 シングルのゲームを楽しむ③
- 第14回 まとめ

#### 【成績評価の方法】

出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

#### 【参考文献】

適宜指示する。(必要に応じて資料を配布する。)

科目名 クラス 講義区分		
健康・スポーツ学演習 [2] - 2009 春		
健康・スポーツ学演習 [2] - 2009 秋		
見 正 秀 基 松 浦 義 昌 見 正 秀 基 松 浦 義 昌	161 <春> 162 <春> 261 <秋> 262 <秋>	2 単位

#### 【講義概要】

東京オリンピックにおいてバレーボール競技が正式種目に制定されて以来、世界中で親しまれる種目となってきたが、昨今はビーチバレーやソフトバレーも普及しつつある。本演習では6人制バレーの実践を主として考えているが、履修学生のリクエストがあれば9人制バレー、ソフトバレーの導入も考えたい。

#### 【学習目標】

授業の目標はゲーム形式で競技の本質を理解させたいと願っているが、より楽しくゲームに親しめるよう基本的な分習法から全習法へと展開していく。なお履修者のスキルに差異もあると思われるが、実践レベルは初心者が競技を楽しめる基準で展開していくことを考えている。

理論については、①健康生活の目標と設計②現在生活と健康危機③健康スポーツ④一般大衆のスポーツ要求の高まりの要因を中心に論ずるが、要は健康で活力ある生活を営むための自主管理について、履修学生と共に学習してみたい。

#### 【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション  
基礎的な身体トレーニングと基礎技術
- 第2回 基礎的な身体トレーニング  
バレーボールの特性・基本的技術の練習
- 第3回 スキルテスト (パス、スパイク、サーブ)
- 第4回 基本技術の練習 (パス、スパイク、ブロック、サーブ)
- 第5回 応用技術の練習 (サーブレシーブフォーメーションと三段攻撃)
- 第6回 応用技術の練習 (スパイクレシーブフォーメーションとブロック)
- 第7回 ゲーム形式の練習 (アンダーハンドサーブのみ)  
(スパイクヒットを用いないパスゲーム)
- 第8回 ゲーム形式の練習 (サーブは2本まで許容、サーブレシーブに主眼をおく)
- 第9回 リーグ戦Ⅰ (Step1) 審判法の説明 リーグ戦6試合 (1面2試合)
- 第10回 リーグ戦9試合 (1面3試合)
- 第11回 リーグ戦Ⅱ (Step2) セッター練習 リーグ戦6試合 (1面2試合)
- 第12回 リーグ戦9試合 (1面3試合)
- 第13回 リーグ戦Ⅲ (Step3) 二段トスとスパイクの練習 リーグ戦6試合 (1面2試合)
- 第14回 リーグ戦Ⅳ (Step4) リーグ戦6試合 (1面3試合)

#### 【成績評価の方法】

出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

#### 【参考文献】

適宜指示する。(必要に応じて資料を配布する。)

科目名	クラス	講義区分
健康・スポーツ学演習	[2]	- 2009 春
健康・スポーツ学演習	[2]	- 2009 秋
濱口雅行 今西俊次 濱口雅俊 今西俊次		166 <春> 167 <春> 266 <秋> 267 <秋>
		2 単位

**【講義概要】**

水中運動が健康の保持・増進や体力づくりに効果的な運動であることは、一般的に認識されていることです。水中環境で運動を行うことによって、生体は水温、浮力、水圧の影響を受けます。水泳を行うことによって、多くのエネルギーを消費（水温の影響）、バランストレーニング（浮力が関与）、全身の筋力を鍛える（抵抗の影響）、呼吸筋を鍛える（水圧の影響）、心地よさ・リラクセーション効果など、陸上運動にはない利点と効果が期待できます。

ビギナーの受講を歓迎します。

各自で競泳用着、キャップ、ゴーグルを用意してください。

**【学習目標】**

ビギナーにとっては、クロール（背泳）で25メートルを泳ぐことが目標になります。経験者は、より合理的な泳法を目指し、水中運動がからだに及ぼす影響について理解を深めたい。

**【講義計画】**

- 第1回 オリエンテーション（健康状態と水泳経験の確認）
- 第2回 水中運動と安全
- 第3回 水中運動の特徴（水中環境の特性、水泳・水中運動の利点と効果）
- 第4回 浮き身、基本姿勢（ストリームラインの確認）
- 第5回 クロール（キック、ストローク）
- 第6回 クロール（キック、ストローク、息つき）
- 第7回 背泳ぎ（ストリームラインの確認、キック、ストローク）
- 第8回 背泳ぎ（コンビネーション）
- 第9回 タイムの測定
- 第10回 リレー
- 第11回 平泳ぎ
- 第12回 バタフライ
- 第13回 持久泳
- 第14回 まとめ

**【成績評価の方法】**

出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

**【参考文献】**

適宜指示する。（必要に応じて資料を配布する。）

科目名	クラス	講義区分
健康・スポーツ学演習	[2]	- 2009 春
健康・スポーツ学演習	[2]	- 2009 秋
前山直		171 <春> 271 <秋>
		2 単位

**<春学期>**

**【講義概要】**

健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。

カナダ生まれのニュースポーツ「キンボール」を使ってリードアップゲームやオフィシャルゲームを体験し、笑顔を絶やさず身体を動かす喜びを皆さんに伝えていきたい。

**【学習目標】**

- ・キンボールを体験し、種目の特性に触れながら技能の上達を図る。
- ・生涯にわたるスポーツライフを設計し、実践する能力を育成する。
- ・グループ活動に必要な態度を身につける。

**【講義計画】**

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 リードアップゲーム ①
- 第3回 リードアップゲーム ②
- 第4回 ルールバリエーション
- 第5回 効果的なヒットについて
- 第6回 レシーブ練習
- 第7回 ルール説明とゲーム体験
- 第8回 チーム作り・・・技術練習
- 第9回 チーム作り・・・戦術を考える
- 第10回 リーグ戦 ①
- 第11回 リーグ戦 ②
- 第12回 リーグ戦 ③
- 第13回 リーグ戦 ④
- 第14回 まとめ

**【成績評価の方法】**

出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

**【参考文献】**

適宜指示する。（必要に応じて資料を配布する。）

**<秋学期>**

**【講義概要】**

健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。

カナダ生まれのニュースポーツ「キンボール」を使ってリードアップゲームやオフィシャルゲームを体験し、笑顔を絶やさず身体を動かす喜びを皆さんに伝えていきたい。

**【学習目標】**

- ・キンボールの練習やゲームを通じて、技能や体力の向上を図る。
- ・生涯にわたるスポーツライフを設計し、実践する能力を育成する。
- ・グループでの活動に必要な態度を身につける。

**【講義計画】**

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 リードアップゲーム紹介
- 第3回 ヒットとレシーブ練習
- 第4回 ルールバリエーション紹介
- 第5回 ゲーム体験
- 第6回 グループ練習 ①
- 第7回 グループ練習 ②
- 第8回 リーグ戦 ①
- 第9回 リーグ戦 ②
- 第10回 リーグ戦 ③
- 第11回 グループ練習 ③
- 第12回 リーグ戦 ④
- 第13回 リーグ戦 ⑤
- 第14回 まとめ

**【成績評価の方法】**

出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

**【参考文献】**

適宜指示する。（必要に応じて資料を配布する。）

科目名 クラス 講義区分		
健康・スポーツ学演習 [2] - 2009 春 健康・スポーツ学演習 [2] - 2009 秋		
児 玉 公 正	176 <春> 177 <春> 276 <秋> 277 <秋>	2 単位

**【講義概要】**

野球は競技人口の多さから見ても国内において上位に位置する人気種目である。この演習では軟式球を用いて、野球のすばらしさと楽しさを再確認する場としたい。授業はゲームを中心に展開する。チームの編成は、教員は介入しない。しかし、チーム力に大きな差が生じた場合はトレードを実施する。運動量を意識しながら歓喜が沸き起こるようなストレス解消の場としても意識していただきたい。雨天プログラムは体育館種目を順にこなす。

**【学習目標】**

学習目標は卒業後に予想されるコミュニティの現場での活用を意識してある程度の技術水準をゲームで展開しながら身に付けることとする。また、運動量を増やす意図からヒットエンドランやランエンドヒットなどの機動力を生かした作戦を期待したい。個人の技術水準を高めるためのクリニックは申し出があればマンツーマンで随時実施する。内容はスローイング、ゴロ捕球、および打撃の基本などになる。評価は出席と授業態度を重視する。技術評価はチーム勝率と自主申告による個人打率・登板回数・盗塁数・本塁打数とで行う。

**【講義計画】**

- 第1回 オリエンテーション、キャッチボールの基本理論と実践
- 第2回 打撃練習① 打撃の基本理論と実践、トスバッティング
- 第3回 打撃練習② 打撃の基本理論と実践、ロングティ
- 第4回 守備練習① ゴロとフライの基本理論と実践、捕球とスローイングのリズム
- 第5回 ゲームの進行方法と審判法を確認
- 第6回 ゲーム①
- 第7回 ゲーム②
- 第8回 ゲーム③
- 第9回 ゲーム形式練習（班ごとにヒットエンドランや挟殺）
- 第10回 ゲーム④
- 第11回 ゲーム⑤
- 第12回 ゲーム⑥
- 第13回 ゲーム⑦
- 第14回 ゲーム⑧、個人成績発表（打数、安打数、本塁打、盗塁、投手登板、捕手）、まとめ  
※クリニックはゲーム中にも随時実施  
※雨天時は体育館種目

**【成績評価の方法】**

出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

**【参考文献】**

適宜指示する。（必要に応じて資料を配布する。）

科目名 クラス 講義区分		
健康・スポーツ学演習 [2] - 2009 春 健康・スポーツ学演習 [2] - 2009 秋		
竹 内 靖 子	181 <春> 281 <秋>	2 単位

**<春学期>**

**【講義概要】**

ニュースポーツやレクリエーションは、自分にあったスポーツ探し、体を動かす機会の少ない人の健康づくりや世代間コミュニケーションの促進などを目的に、体力や年齢に関係なくだれもが気軽に楽しめる活動として普及しています。授業では、ニュースポーツ・レクリエーションを通じて活動の楽しさを追求し、からだところの健康づくり、仲間作り、環境づくりを実践しながら学びます。

**【学習目標】**

体力や年齢に関係なく楽しめる様々なニュー・コンセプト・スポーツやレクリエーションを体験、発表する。アイスブレイキングゲームづくりなど参加者のニーズや状況にあわせアレンジ（工夫）する力を身につける。

**【講義計画】**

- 第1回 オリエンテーション（授業概要とアンケート）
- 第2回 アイスブレイキングゲーム（ゲームづくり）
- 第3回 チャレンジ・ザ・ゲーム（大縄飛びなど）
- 第4回 アイスブレイキングゲーム発表
- 第5回 スポンジテニス1
- 第6回 スポンジテニス2
- 第7回 ソフトバレー1
- 第8回 ソフトバレー2
- 第9回 ガラッキー・ペタンク・ソフトローンボール
- 第10回 公式ワナゲ・クロリティ・スカイクロス・ビーンボウリング
- 第11回 ターゲットバードゴルフ
- 第12回 ソフトラクロス
- 第13回 ユニホッケー（ピロポロ）
- 第14回 その他のニュースポーツ紹介とまとめ

**【成績評価の方法】**

出席率、学習態度、発表、レポート（ノート）等から総合評価する。

**【教科書】**

必要に応じて紹介または資料を配布する

**【参考文献】**

必要に応じて紹介または資料を配布する

**<秋学期>**

**【講義概要】**

ニュースポーツやレクリエーションは、自分にあったスポーツ探し、体を動かす機会の少ない人の健康づくりや世代間コミュニケーションの促進などを目的に、体力や年齢に関係なくだれもが気軽に楽しめる活動として普及しています。授業では、ニュースポーツ・レクリエーションを通じて活動の楽しさを追求し、からだところの健康づくり、仲間作り、環境づくりを実践しながら学びます。

**【学習目標】**

体力や年齢に関係なく楽しめる様々なニュー・コンセプト・スポーツやレクリエーションを体験、発表する。今後、様々な場所で活用できるように参加者のニーズや状況にあわせアレンジ（工夫）する力を身につける。

**【講義計画】**

- 第1回 オリエンテーション（授業概要とアンケート）
- 第2回 アイスブレイキングゲーム  
アレンジレクスポーツ（グループ発表オリエンテーション）
- 第3回 アレンジレクスポーツ①バレー系
- 第4回 アレンジレクスポーツ②ラケット系
- 第5回 アレンジレクスポーツ③その他
- 第6回 その他ニュースポーツ紹介とグループ発表準備
- 第7回 グループ発表1
- 第8回 グループ発表2
- 第9回 グループ発表3
- 第10回 グループ発表4

- 第11回 グループ発表5
- 第12回 グループ発表6
- 第13回 グループ発表7
- 第14回 まとめ

**【成績評価の方法】**

出席率、学習態度、発表、レポート（ノート）等から総合評価する。

**【教科書】**

必要に応じて紹介または資料を配布する

**【参考文献】**

必要に応じて紹介または資料を配布する

科目名 クラス 講義区分

健康・スポーツ学演習 [2] - 2009 春  
健康・スポーツ学演習 [2] - 2009 秋

前 山 直

182 <春>  
282 <秋>

2 単位

**<春学期>**

**【講義概要】**

健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。

ニューコンセプトスポーツを紹介しながら、身体を動かす喜びや仲間と助け合う事の素晴らしさが自然に感じられるような講義を実施していきたい。

一緒に笑顔で汗を流しましょう。

**【学習目標】**

- ・各種ニュースポーツを体験し、種目の特性に触れながら技能の上達を図る。
- ・生涯にわたるスポーツライフを設計し、実践する能力を育成する。
- ・グループ活動に必要な態度を身につける。

**【講義計画】**

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 キンボール ①リードアップゲーム紹介
- 第3回 キンボール ②ルールバリエーション紹介
- 第4回 キンボール ③オフィシャルゲーム体験
- 第5回 公式ワナゲ、クロリティー
- 第6回 ピロポロ
- 第7回 ガラッキー、ペタンク、ディスコン
- 第8回 アルティメット
- 第9回 スカイトロス
- 第10回 ターゲットバードゴルフ ①スウィング練習
- 第11回 ターゲットバードゴルフ ②コースラウンド
- 第12回 ソフトバレーボール
- 第13回 スポーツフェスティバル みんなで楽しく
- 第14回 まとめ

**【成績評価の方法】**

出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

**【参考文献】**

適宜指示する。(必要に応じて資料を配布する。)

**<秋学期>**

**【講義概要】**

健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。

ニューコンセプトスポーツを紹介しながら、身体を動かす喜びや仲間と助け合う事の素晴らしさが自然に感じられるような講義を実施していきたい。

一緒に笑顔で汗を流しましょう。

**【学習目標】**

- ・各種ニュースポーツを体験し、種目の特性に触れながら技能の上達を図る。
- ・生涯にわたるスポーツライフを設計し、実践する能力を育成する。
- ・グループ活動に必要な態度を身につける。

**【講義計画】**

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 キンボール リードアップゲーム
- 第3回 キンボール ルールバリエーション
- 第4回 ペタンク、ディスコン、ガラッキー
- 第5回 ソフトラクロス
- 第6回 公式ワナゲ、クロリティー、ローンボールス
- 第7回 ピロポロ
- 第8回 グループ発表 ①
- 第9回 グループ発表 ②
- 第10回 グループ発表 ③
- 第11回 グループ発表 ④
- 第12回 グループ発表 ⑤

か  
行

第13回 スポーツフェスティバル  
第14回 まとめ

**【成績評価の方法】**

出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

**【参考文献】**

適宜指示する。(必要に応じて資料を配布する。)

科目名 クラス 講義区分

健康・スポーツ学演習 [2] - 2009 春  
健康・スポーツ学演習 [2] - 2009 秋

高 成 度

183 <春>  
283 <秋>

2 単位

**【講義概要】**

ゴルフは競技スポーツ、生涯スポーツ、社交と健康のスポーツとして男女の初心者から経験者まで履修できます。授業は学外のイズミゴルフセンターで実施します。本演習ではゴルフの基本技術を学習します。アプローチショット(コントロール)とフルショット(飛ばし)の違いを習得します。そのためには、クラブやボールの特性と体の関連を知ることが大切です。すべてのクラブでショットできるようにチャレンジしてもらいます。

**【学習目標】**

ゴルフを通して自己の可能性に挑戦し、スポーツ文化としてのゴルフを学習します。マインドコントロールやメンタルトレーニングの大切さを知るとともにゴルフでもっとも重要なマナー、エチケットを学びます。その上でゴルフラウンドを実施し経験します。卒業後、生涯スポーツとして生活の中に取り入れて豊かな心を育むことをねらいとします。

**【講義計画】**

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ゴルフの基本スイング①(ボディスイング・アームスイング)
- 第3回 ゴルフの基本スイング②(グリップ・クラブスイング)
- 第4回 ゴルフの基本スイング③(フォームのチェック)
- 第5回 ゴルフの基本スイング④(バックスイング・ダウンスイング)
- 第6回 ゴルフの基本スイング⑤(フォローイングのチェック)
- 第7回 アプローチショットとパター①
- 第8回 アプローチショットとパター②
- 第9回 飛距離アップとコース攻略イメージ学習
- 第10回 ラウンドレッスン(コース攻略の考え方)
- 第11回 ラウンドレッスン(コース攻略の考え方)
- 第12回 ラウンドレッスン(コース攻略の考え方)
- 第13回 ラウンドレッスン(コース攻略の考え方)
- 第14回 まとめ

**【成績評価の方法】**

出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

**【参考文献】**

適宜指示する。(必要に応じて資料を配布する。)

**【備考】**

平常の授業は学外施設(イゾミゴルフ: 泉北・光明池)で行います。大学と学外施設間で大学シャトルバスを運行します。(大学発11時、学外教場発12時40分。所要時間約10分)  
この授業は、打球場でのボール代10,000円(1回1,000円×10回)とラウンドレッスン費用10,000円、合計20,000円が別途必要です。

科目名 クラス 講義区分			
健康・スポーツ学演習 [2] - 2009 春			
健康・スポーツ学演習 [2] - 2009 秋			
高橋ひとみ	橋玉公正	185 <春>	2 単位
高見公正	高見ひとみ	186 <春>	
高見橋玉	高見橋玉	285 <秋>	
高見橋玉	高見橋玉	286 <秋>	

#### 【講義概要】

一般的な持久力を高める有酸素運動に、柔軟性・筋力・瞬発力などの要素も取り入れたエアロビクスを皆で楽しみながら実践する。ついで、グループで簡単なエアロビクスを創作し、互いに教示し、一連のエアロビクスを創り、皆で楽しく実施する。

#### 【学習目標】

大学生の多くは、発育発達の面から考えて運動が必要な時期に受験勉強を強いられ、基礎体力が低下している。さらに、運動習慣を身につけていないため、今後の運動生活は期待できない。

そこで、自己の体力にあわせて、無理なく、楽しく、手軽に実施することができるエアロビクスの実践を通して、身体的・精神的・社会的な運動の効果を体得し、「生涯スポーツ」に繋げることを目的とする。

#### 【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション・エアロビクを始めよう(1)
- 第2回 エアロビクを始めよう(2)
- 第3回 ビートで楽しもう(1)
- 第4回 ビートで楽しもう(2)
- 第5回 ビートで楽しもう(3)
- 第6回 リズムに乗ろう(1)
- 第7回 リズムに乗ろう(2)
- 第8回 リズムに乗ろう(3)
- 第9回 動きにアクセントをつけよう(1)
- 第10回 動きにアクセントをつけよう(2)
- 第11回 動きにアクセントをつけよう(3)
- 第12回 一連の動きを楽しもう(1)
- 第13回 一連の動きを楽しもう(2)
- 第14回 一連の動きを楽しもう(3)・まとめ

#### 【成績評価の方法】

レポート 20% 出席 80%  
出席率、学習態度、レポートなどから総合的に評価する。

科目名 クラス 講義区分		
健康・スポーツ学演習 [2] - 2009 秋		
今西俊次	291 <秋> 292 <秋>	2 単位

#### 【講義概要】

スノースポーツ・クラスは、秋学期におこなう週1回の授業と2月に実施される長野県戸隠での集中授業(現地4泊5日)によって構成されています。秋学期の授業開始後にアンケートを取り、カービングスキーかスノーボードのどちらかを選択してもらいます。

学内の授業では、フィジカル・トレーニングとスノースポーツに関する基礎的な知識や安全対策を確認します。戸隠では安全に心がけ、経験に応じて少人数グループを編成してスキル・トレーニングをおこないます。

#### 【学習目標】

スキー、スノーボードは、ボードや板を操作して、雪の斜面を安全に滑走するスポーツです。雪質は気温や斜面の向きによって変化し、緩斜面があれば急斜面もあります。安全で安定した滑りを身につけるためには、動きやフォームをコントロールし、ボードや板のずれと角づけを適切に調整する必要があります。

戸隠でのスキル・トレーニングを通して、安全で安定した滑走技術と総合的な判断力の獲得を目指します。

#### 【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 健康調査アンケートの実施(協力:本学保健室)
- 第3回 スキーとスノーボードの特徴
- 第4回 スノースポーツの安全対策
- 第5回 フィジカル・トレーニング
- 第6回 フィジカル・トレーニング
- 第7回 フィジカル・トレーニング
- 第8回 スノースポーツの歴史
- 第9回 フィジカル・トレーニング
- 第10回 フィジカル・トレーニング
- 第11回 フィジカル・トレーニング
- 第12回 アンケートの結果と実習中の健康管理(協力:本学保健室)
- 第13回 フィジカル・トレーニング
- 第14回 まとめ(戸隠でのスキル・トレーニングにむけて)

#### 【成績評価の方法】

出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

#### 【参考文献】

適宜指示する。(必要に応じて資料を配布する。)

## ○「健康・スポーツ学演習」の概要等について（09生）

### 【概 要】

今日の機械文明の発達、我々の生活を便利で豊かにした反面、文明病の発生、体力不足、人間疎外、自然破壊などの弊害をもたらし、人間としての大切な生命や健康をおびやかす結果を招いています。このような状況において、スポーツが果たす役割は多様化してきています。すなわち我々現代人には、実践者、監督者、企画者として、あるいはトータルマネジメントの素養が社会的に求められるようになってきています。

本学の「健康・スポーツ学演習」では、多様なニーズに応えるために、健康・スポーツ・マネジメントなどに関する理論と実技の統一的な研究・学習・実習によって、課題追求型、解決型、あるいは問題発見型の演習授業を行い、学生諸君の理論的・実践的能力の修得をめざします。

### 【履修方法】

「健康・スポーツ学演習」は共通教養科目として位置づけられています。春学期・秋学期を通して（通期）、週一回の授業を行う2単位科目です。履修登録は春学期予備登録期間中に登録し、1年間に2単位の履修登録で、4年間で8単位での重複履修が可能です。

科目の詳細については、『授業時間割表』の「各種予備登録要領」を参照してください。

### 【コース・種目と内容】

本演習のクラス編成にあたっては、スポーツの特性と学生諸君の多様なニーズに応えるため、次の6コースを設け、各種目を実施します。

#### A. 健康トレーニングコース

体力・運動能力を高めるための健康保持・体力養成クラスで、測定実習もふくめた理論の学習と、健康の自己管理能力を高めるためのウエルネスコースでもあります。

種 目	対 象	開 講 期 間
エアロビクス	男・女	通 期
ボディビルディング		休 講

#### B. スポーツ文化コース

スポーツを文化としてとらえ、それぞれのスポーツ種目の特性と理論を理解するとともに、パフォーマンスの能力を高めるものです。

種 目	対 象	開 講 期 間
バレーボール、バスケットボール、水泳 テニス、バドミントン、卓球	男・女	通 期
サッカー、室内サッカー、ソフトボール、	男	



剣道、柔道、ラグビー、アーチェリー、軟式野球 女子トリム・ソフトボール、ハンドボール、ゴルフ	休 講
---------------------------------------------------	-----

※女子学生は、原則としてサッカー、ソフトボール、ハンドボール、ラグビー、軟式野球、室内サッカーは受講できません。

### C. シーズンスポーツコース

学内での半期の授業と、シーズンにあわせて実施する短期集中型での成果をめざすコースです。合宿などによる共同生活を体験し、社会性を養います。

種 目	対 象	学内期間	集中期間	場 所	参加費
スノースポーツ (スノーボード、カービング スキー)	2回生 以上 男・女	休 講			
スケート	休 講				

※スノースポーツの履修者は参加費（約35,000円）以外に、交通費、用具レンタル代などの経費が必要です。

※自由参加としての受講も可能です。

### D. 障害者スポーツコース

主に身体虚弱者、身体障害者などを対象とし、個人の体力や能力に応じたスポーツや運動処方を学びます。

種 目	対 象	開 講 期 間
障害者スポーツ	男・女	休 講

※このコースを希望する学生は、事前に体育館事務室で相談してください。

### E. レクリエーション・スポーツコース

生涯スポーツとして、あるいは楽しい健康生活のために、カヌーイング・ヨットなどの野外活動やニュースポーツを体験し、レクリエーションの理論と技術などの能力を獲得します。

種 目	対 象	学内期間	集中期間	場 所	参加費
集中レクリエーション・スポーツ (ウインドサーフィン・カヌー・ヨット)	休 講				

※ 参加費以外に交通費等が必要です。

種 目	対 象	開 講 期 間
ニューコンセプトスポーツ キンボール	男・女	通 期

## F. スポーツ・トレーニングコース

このコースは、トレーニングに関心のある学生を対象とし、専門的にスポーツを実践し、指導するために必要なトレーニングの理論や方法を学習します。

種 目	対 象	開 講 期 間
スポーツトレーニング		休 講

### 〈演習受講に関する注意〉

(1) 成績評価の方法

出席率、学習態度、レポートなどから総合評価します。

(2) テキスト

必要に応じて指示します。

(3) 更 衣

指定された場所で更衣し、**貴重品は、各自ロッカーに保管して、必ず施錠してください。**

(4) 服 装

スポーツに適したウェア（水泳クラスは競泳用水着・水泳帽・ゴーグル）を着用すること。

(5) シューズ

グラウンドではグラウンド用シューズ（サッカーシューズ可）、テニスコートではテニスシューズ（運動靴可）、総合体育館・トレーニングルームでは上ばき（体育館シューズ）を着用してください。グラウンドと体育館との兼用は認めません。なお貸出用はありませんので、自分のものを持参してください。

(6) 教 場

グラウンド、テニスコート、体育館、A Vコーナーなどの教場は授業の進行や雨天等により変更する場合があります。毎時間、総合体育館内掲示板で確認してください。

(7) 用 具

各種コースの用具は貸与しますが、各自所有の用具を使用することを勧めます。

ただし、シーズンスポーツコースのスノーボード用具等は各自で準備してください。

#### 《注意》

**更衣は指定された場所で行うとともに、盗難防止のため、利用したコインロッカーは必ず施錠してください。**

### 〈欠席の取り扱いについて〉

(1) 欠席した場合は、欠席後1週間以内に、所定の「欠席届」を体育館事務室に提出してください。

(2) 以下の場合、原則として、「健康・スポーツ学演習」での公認欠席を認めます。

- クラブ公式戦、学外での合宿・発表会・演奏会等およびゼミ合宿等による欠席は、所定の「公認欠席届」でのクラブ部長・顧問、ゼミ教員等の証明により、公認欠席扱いとします。
- 4回生以上の就職活動（会社訪問・面接・入社試験）については、キャリアセンターの証明により公認欠席扱いとします。
- 忌引および学校保健法に基づく伝染病罹患については、「公認欠席取扱規程」により、学生課で手続きをしてください。

## 〈授業外における施設・用具の利用について〉

- 授業中の教場には、受講生以外の立ち入りは禁止します。
- 演習受講生の自学自習および一般学生の恒常的なスポーツ活動を実践化奨励のため、施設の開放時間を設けています。用具（シューズを除く）の貸し出しも行いますので、希望者は使用可能場所・時間帯を総合体育館内掲示板等で確認し、体育館事務室窓口に出してください。ただし、雨天の場合は屋外で行う授業の代替教場として館内施設を使用しますので、開放は一時中止します。
- 学内施設開放は『一般学生向け 体育施設利用のしおり'09』に記載しています。
- 屋外、屋内とも、貸出用のシューズはありません。
- 総合体育館内は、土足禁止です。
- 総合体育館内およびその周辺での喫煙は禁止しています。指定された場所で喫煙してください。また、館内での飲食も禁止です。飲食物を持ち込まないようにしてください。

### 授業を受講する際の留意事項

1. 第1回目から授業を行います。運動のできる服装に着替えて指定された教場に集合してください。
2. シューズは屋内、屋外種目とも、自分のものを持参してください。貸出用はありません。
3. 更衣室にはコインロッカーを設置しています。盗難防止のため必ずこのロッカーを利用し、施錠してください。開錠時に硬貨は戻ってきます。

## 健康・スポーツ学演習（09生対象）

★ 以下の表に掲げたクラスより、希望するクラス番号を選択し予備登録してください。

★ 第1希望から第5希望まで記入してください。抽選方式により行います。

※ 必ず指定の予備登録申請用紙に記入し、期間内に申し込みをしてください。

★ 各クラスの概要については、講義計画を参照してください。

【健康・スポーツ学演習 [2] (2009) 通期】 <各定員は新1回生のみ而定員となります>

クラス	担当者	曜時	学期	種目	定員
101	吉井 泉	木3	通期	バスケットボール	36
102	眞来 省二	金1	通期	バスケットボール	36
111	見正 秀基	火1	通期	バドミントン	32
112	濱口 雅行	水1	通期	バドミントン	32
113	志水 正俊	金2	通期	バドミントン	32
121	藤木 泰治	火2	通期	サッカー	36
122	松本 直也	金3	通期	サッカー	36
131	今西 俊次	火1	通期	テニス	28
132	松浦 義昌	水3	通期	テニス	28
133	末野 幹敏	木2	通期	テニス	28
141	藤木 泰治	月3	通期	室内サッカー	30
142	野田 浩之	水3	通期	室内サッカー	30

クラス	担当者	曜時	学期	種目	定員
146	今西 俊次	火3	通期	ソフトボール	30
151	末野 幹敏	月3	通期	卓球	36
152	松本 直也	火1	通期	卓球	36
153	末野 幹敏	木3	通期	卓球	36
161	見正 秀基	火2	通期	バレーボール	36
162	志水 正俊	金3	通期	バレーボール	36
166	高 成廈	金2	通期	水泳	28
171	前山 直	水4	通期	キンボール	30
181	竹内 靖子	月2	通期	ニューコンセプトスポーツ	30
185	高橋 ひとみ	月4	通期	エアロビクス	35

科目名 クラス 講義区分		
健康・スポーツ学演習 - < 2009 >		
吉井 泉 真 来 省 二	101 <通期> 102 <通期>	2 単位

**【講義概要】**

バスケットボールは、ボールゲームの中でも人気スポーツのひとつです。しかしその一方、運動強度も高く、戦術的にも奥深いスポーツです。各授業では前半に技術練習、後半はゲーム中心の授業展開の中で、技術、ルール、戦術、審判法、ゲーム運営法などの理解と実践を行います。またチーム別に練習や試合を企画し実施するグループワークも行います。

**【学習目標】**

本演習では、バスケットボールの個人技術、コンビネーション、戦術、ゲーム運営などを獲得することで、生涯にわたって健康を保持増進する資質を獲得することを目標とします。また、受講する中で、自己表現や他者理解、チームワークの重要性について学び、コミュニケーション能力の向上を目指します。

**【講義計画】**

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 基本動作（ボールの持ち方、フットワーク、ドリブル）、簡易ゲーム・1
- 第3回 基本技術（チェストパス、ワンハンドブッシュパス、ラテラルパス）、簡易ゲーム・2
- 第4回 基本技術（ドリブル、チェンジ、ダックイン）、簡易ゲーム・3
- 第5回 基本技術（ブレイクスルー、キャリアセーフリー）、簡易ゲーム・4
- 第6回 オフェンス技術（基本シュート、ジャンプシュート、ランニングシュート）・簡易ゲーム5
- 第7回 ディフェンス技術（基本姿勢、ステップ、チェック、スチール）・簡易ゲーム
- 第8回 ルールの理解と審判法、リーグ戦1
- 第9回 リバウンド技術（キャッチ、チップ、ボックスアウト）、リーグ戦2
- 第10回 チームオフェンス（スクリーン、カットイン、ペネトレーション）、リーグ戦3
- 第11回 チームオフェンス（ファーストブレイク）、リーグ戦4
- 第12回 チームオフェンス（ゾーンオフェンス）、リーグ戦5
- 第13回 チームディフェンス（マンツーマンディフェンス、ゾーンディフェンス）・リーグ戦6
- 第14回 リーグ戦の企画と運営
- 第15回 攻防の練習（1on1、2on1）、リーグ戦7、ゲーム分析
- 第16回 攻防の練習（3on2、3on3）、リーグ戦8、ゲーム分析
- 第17回 攻防の練習（3on3、4on3）、リーグ戦9、ゲーム分析
- 第18回 戦術の理解、リーグ戦10、ゲーム分析
- 第19回 グループワーク（企画と運営）1
- 第20回 グループワーク（企画と運営）2
- 第21回 グループワーク（企画と運営）3
- 第22回 グループワーク（企画と運営）4
- 第23回 グループワーク（企画と運営）5
- 第24回 グループワーク（企画と運営）6
- 第25回 リーグ戦11、ゲーム分析
- 第26回 リーグ戦12、ゲーム分析
- 第27回 チーム戦13、ゲーム分析
- 第28回 まとめ

**【成績評価の方法】**

出席率、履修態度、レポートなどから総合評価します。

**【参考文献】**

適宜指示します。（必要に応じて資料を配布します。）

科目名 クラス 講義区分		
健康・スポーツ学演習 - < 2009 >		
見正 秀 基 濱 口 雅 行 志 水 正 俊	111 <通期> 112 <通期> 113 <通期>	2 単位

**【講義概要】**

バドミントンは「レクリエーションスポーツ」「生涯スポーツ」として誰もが気軽に親しみやすいスポーツです。本演習では身体活動の重要性、ゲームを通しての自己表現およびコミュニケーションの大切さを学びます。

**【学習目標】**

バドミントンの特性を知り、身体を動かすことの大切さやゲームの楽しさを体験する。また、バドミントンを生活の中に取り入れ心身を豊かにし、生涯スポーツとして実践していく能力と習慣を養う。

**【講義計画】**

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 基礎技術（クリアー、ドライブ）の習得とシングルの簡易ゲーム1
- 第3回 基礎技術（クリアー、ドライブ）の習得とシングルの簡易ゲーム2
- 第4回 基礎技術（クリアー、ドライブ）の習得とシングルの簡易ゲーム2
- 第5回 基礎技術（カット、ヘアーピン）の習得とシングルの簡易ゲーム1
- 第6回 基礎技術（カット、ヘアーピン）の習得とシングルの簡易ゲーム2
- 第7回 基礎技術（カット、ヘアーピン）の習得とシングルの簡易ゲーム3
- 第8回 基礎技術（スマッシュ、サービス）の習得とゲーム1
- 第9回 基礎技術（スマッシュ、サービス）の習得とゲーム2
- 第10回 基礎技術（スマッシュ、サービス）の習得とゲーム3
- 第11回 基礎技術（フットワーク）の習得とゲーム1
- 第12回 基礎技術（フットワーク）の習得とゲーム2
- 第13回 基礎技術（フットワーク）の習得とゲーム3
- 第14回 戦術（サイド・バイ・サイド）の学習と理解。ダブルスのゲーム1
- 第15回 戦術（サイド・バイ・サイド）の学習と理解。ダブルスのゲーム2
- 第16回 戦術（サイド・バイ・サイド）の学習と理解。ダブルスのゲーム3
- 第17回 戦術（トップ・アンド・バック）の学習と理解。ダブルスのゲーム1
- 第18回 戦術（トップ・アンド・バック）の学習と理解。ダブルスのゲーム2
- 第19回 戦術（トップ・アンド・バック）の学習と理解。ダブルスのゲーム3
- 第20回 戦術（ローテーション）の学習と理解。ダブルスのゲーム
- 第21回 リーグ戦
- 第22回 リーグ戦
- 第23回 リーグ戦
- 第24回 リーグ戦
- 第25回 リーグ戦
- 第26回 リーグ戦
- 第27回 リーグ戦
- 第28回 まとめ

**【成績評価の方法】**

出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

**【参考文献】**

適宜指示する。（必要に応じて資料を配布する。）

科目名 クラス 講義区分		
健康・スポーツ学演習 - < 2009 >		
藤木泰治 松本直也	121 < 通期 > 122 < 通期 >	2 単位

**【講義概要】**

サッカーは世界中で多くの人々に楽しんでいるスポーツです。ボールひとつあれば「いつでも、どこでも、気軽に」楽しむことができます。

本演習は、ゲームを中心に展開し、楽しく真剣にゲームを行うことを目的とします。サッカーをより楽しむためには技術や戦術の習得も必要となりますし、チームメイトとのコミュニケーションもゲームにおいて大切な要素のひとつです。よってそれらの点を重視し授業を展開します。また、同時にルールや審判法の理解と実践も行います。

**【学習目標】**

学習目標は以下の通りである。

1. 積極的、自発的な授業への参加。
2. 積極的なコミュニケーション。
3. 基本技術の習得。
4. 基本戦術の理解と習得。
5. 審判法の理解と実践。

**【講義計画】**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ボールフィーリング①
- 第3回 ボールフィーリング②
- 第4回 ゴールを目指す① ～パス&コントロール～
- 第5回 ゴールを目指す② ～ボールを失わない～
- 第6回 ゴールを奪う① ～シュート～
- 第7回 ゴールを奪う② ～突破～
- 第8回 ボールを奪う&ゴールを守る
- 第9回 スモールサイドゲーム①
- 第10回 スモールサイドゲーム②
- 第11回 スモールサイドゲーム③
- 第12回 スモールサイドゲーム④
- 第13回 審判法の理解と実践
- 第14回 まとめ
- 第15回 個人戦術Ⅰ：有効な視野の確保とパスの優先順位
- 第16回 個人戦術Ⅱ：ポジショニングとチャレンジの優先順位技
- 第17回 グループ戦術Ⅰ：コンビネーションプレー
- 第18回 グループ戦術Ⅱ：チャレンジ&カバー
- 第19回 スモールサイドゲームとプレーの原則
- 第20回 スモールサイドゲームとゴールを意識したプレー
- 第21回 リーグ戦①
- 第22回 リーグ戦②
- 第23回 リーグ戦③
- 第24回 リーグ戦④
- 第25回 リーグ戦⑤
- 第26回 リーグ戦⑥
- 第27回 リーグ戦⑦
- 第28回 まとめ

**【成績評価の方法】**

出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

**【参考文献】**

適宜指示する。(必要に応じて資料を配布する。)

科目名 クラス 講義区分			
健康・スポーツ学演習 - < 2009 >			
今西俊次 松浦義昌 末野幹敏	131 < 通期 > 132 < 通期 > 133 < 通期 >	2 単位	

**【講義概要】**

テニスを持つ内容は運動技術、生理、心理、集団・社会的技術に分類できる。しかし、学びの場において複雑な内容が経験されたとしても、それらの経験の中心はテニスをする場に最も直接的な技術である運動技術の向上に求められる。そこで、この授業では、運動技術の向上を第1に考えるとともに運動技術の構造を明らかにして、生涯にわたって、テニスを享受していくことのできるテニスの総合的行動能力を育成する。

**【学習目標】**

エネルギーな運動こそ、われわれが生きている状態を明白に示す現象であることに気づき、ゲームを通じて喜怒哀楽を味わい、テニスコートから「人生に必要な知恵」を学んで欲しい。

**【講義計画】**

- 第1回 オリエンテーション：スポーツにおける才能・テニスにおける才能とは
- 第2回 テニスの構造を理解する
- 第3回 ドリルワークによる基本6ストロークの習得（その1）
- 第4回 ドリルワークによる基本6ストロークの習得（その2）
- 第5回 ドリルワークによる基本6ストロークの習得（その3）
- 第6回 ドリルワークによる基本6ストロークの習得（その4）
- 第7回 ドリルワークによる基本6ストロークの習得（その5）
- 第8回 ドリルワークによる基本6ストロークの習得（その6）
- 第9回 速さと距離と時間：セーフティラインの原則
- 第10回 実践場面における動きのコツ（スペーシング、グレーティング、タイミング）
- 第11回 課題練習：自分にとって何が課題かを知る
- 第12回 熟達と苦手意識を克服する運動修正法
- 第13回 技術レベル差に困らない効果的ドリル
- 第14回 初心者にもできるゲーム
- 第15回 ゲームマネジメント（試合の組み立てに必要な5つの要素）
- 第16回 ゲームマネジメント（戦術的要素を組み込んだ技術練習）
- 第17回 テニスにおける身体的・心理的敏捷性のトレーニング（状況認知と予測を高める方策）
- 第18回 ゲームのためのメンタル・ステージの高め方
- 第19回 テニス競技運営と競技規則の基礎解釈（ルールの持つ意味と重要性について）
- 第20回 シングルス・ゲーム（男女別）
- 第21回 シングルス・ゲーム（男女別）
- 第22回 ダブルス・ゲーム（男女別）
- 第23回 ダブルス・ゲーム（男女別）
- 第24回 ミックス・ダブルス・ゲーム
- 第25回 ミックス・ダブルス・ゲーム
- 第26回 団体戦
- 第27回 団体戦
- 第28回 まとめ：テニス上達度テスト

**【成績評価の方法】**

出席率、技術、学習態度、レポートなどから総合評価する。

**【参考文献】**

必要に応じて資料を配布する。

科目名 クラス 講義区分		
健康・スポーツ学演習 - < 2009 >		
藤木 泰治 野田 浩之	141 <通期> 142 <通期>	2 単位

**【講義概要】**

サッカーは多くの仲間を作り、世界共通のスポーツ文化としてあらゆる国々で楽しまれています。室内サッカーはメインアリーナで実施します。1チームの人数を6～7人に編成し、リーグ戦形式で展開します。

サッカーはチームが一体になってゴールを目指すという「共通の目的」を持って楽しむスポーツである。個人戦術をベースに、ゴールするために視野の広いルックアップの姿勢から攻守における切り替えの速さと状況判断・状況認識が大切である。チームプレーを常に意識しながら、室内サッカーのゲームにチャレンジしてもらいます。

**【学習目標】**

M-T-M方式で展開する。M-T-MとはMatch-Training- Matchのことで、その意味は実際に試合をすることによって発生した課題に対して焦点を絞り、その局面を重点的に練習した上で再度ゲームに戻すトレーニング方法です。課題は基本技術からチーム戦術までさまざまなもの想定されます。課題を探し、克服していくことが重要です。室内サッカーを生涯スポーツとして生活の中に取り入れ心を豊かに育むことをねらいとする。

**【講義計画】**

- 第1回 <春学期>  
オリエンテーション
- 第2回 チーム編成のためのゲーム① 5対5
- 第3回 チーム編成のためのゲーム② 5対5
- 第4回 リーグ戦
- 第5回 リーグ戦
- 第6回 リーグ戦
- 第7回 リーグ戦
- 第8回 リーグ戦
- 第9回 リーグ戦
- 第10回 リーグ戦
- 第11回 リーグ戦
- 第12回 リーグ戦
- 第13回 リーグ戦
- 第14回 まとめ
- 第15回 <秋学期>  
オリエンテーション
- 第16回 チーム編成のためのゲーム① 5対5
- 第17回 チーム編成のためのゲーム② 5対5
- 第18回 リーグ戦
- 第19回 リーグ戦
- 第20回 リーグ戦
- 第21回 リーグ戦
- 第22回 リーグ戦
- 第23回 リーグ戦
- 第24回 リーグ戦
- 第25回 リーグ戦
- 第26回 リーグ戦
- 第27回 リーグ戦
- 第28回 まとめ

**【成績評価の方法】**

出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

科目名 クラス 講義区分		
健康・スポーツ学演習 - < 2009 >		
今西 俊次	146 <通期>	2 単位

**【講義概要】**

ソフトボールは、ベースボールを元に生まれた野球型のスポーツです。投げる、打つ、走る要素から成り立っています。高校・プロ野球、北京オリンピックにおける女子ソフトボールの活躍と報道をみても、野球型スポーツに強い関心を持っている人の多いことが分かります。

ソフトボールはチーム間の対戦ですが、勝ち負けは個人的なプレイの積み重ねによって決まります。チームワークを大切に、一つのプレイに集中することが必要です。

本授業では、基本的な技術練習をおこなった後、ゲームを中心に進めます。

チームの勝率、打率や守備等に関する記録を残し、レポートの作成に活用します。

**【学習目標】**

技術練習とゲームを通して自己の可能性に挑戦し、お互いがチームの勝利のために協力しあうことの難しさと楽しさを体験する。

**【講義計画】**

- 第1回 オリエンテーション（体調の確認、スポーツ経験の確認）
- 第2回 ソフトボールにおけるケガ・事故とその予防
- 第3回 基本技術の確認と練習（キャッチボール、グラウンダーとフライの捕球・送球）
- 第4回 基本技術の確認と練習（復習、バッティングと守備）
- 第5回 チーム別練習（チーム編成とチーム別練習）
- 第6回 ゲーム形式の練習（守備位置と打順の確認、）
- 第7回 ゲーム形式の練習
- 第8回 ゲーム（個人とチーム成績の記録）
- 第9回 ゲーム（個人とチーム成績の記録）
- 第10回 ゲーム（個人とチーム成績の記録）
- 第11回 野球・ソフトボールの歴史（資料、ビデオ）、勝因と敗因の分析
- 第12回 チーム再編成、ゲーム（個人とチーム成績の記録）
- 第13回 ゲーム（個人とチーム成績の記録）
- 第14回 ゲーム（個人とチーム成績の記録、春学期まとめ）
- 第15回 コンディションの確認、打撃・守備練習
- 第16回 チーム編成とチーム別練習
- 第17回 ゲーム（個人とチーム成績の記録）
- 第18回 ゲーム（個人とチーム成績の記録）
- 第19回 ゲーム（個人とチーム成績の記録）
- 第20回 ゲーム（個人とチーム成績の記録）
- 第21回 ゲーム（個人とチーム成績の記録）
- 第22回 ゲーム（勝因と敗因の分析、個人とチーム成績の記録）
- 第23回 チーム再編成、ゲーム（個人とチーム成績の記録）
- 第24回 ゲーム（個人とチーム成績の記録）
- 第25回 ゲーム（個人とチーム成績の記録）
- 第26回 ゲーム（個人とチーム成績の記録）
- 第27回 ゲーム（個人とチーム成績の記録）
- 第28回 まとめ

**【成績評価の方法】**

出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

科目名 クラス 講義区分		
健康・スポーツ学演習 - < 2009 >		
末野幹敏 松本直也 末野幹敏	151 <通期> 152 <通期> 153 <通期>	2 単位

#### 【講義概要】

卓球は老若男女を問わず多くの人たちを楽しませているスポーツです。本演習では、ゲームを楽しむためのストロークやサーブなどの基本的技能を習得しながら、今ある技術でシングルス、ダブルス、ミックスダブルスといったゲームを楽しみながら行うことを目的とします。また、卓球の持つ楽しさを感じることで生涯スポーツとしての卓球の魅力に触れていければと思います。積極的に参加できる学生の履修を希望します。

#### 【学習目標】

学習目標は以下の通りである。

1. 積極的、自発的な授業への参加。
2. 積極的なコミュニケーション。
3. シングルスに必要な基本技術の習得。
4. ダブルスに必要な基本戦術の習得。
5. 審判法の理解と実践。

#### 【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ラケットとボールに慣れる①
- 第3回 ラケットとボールに慣れる②
- 第4回 ラリーを試してみる①
- 第5回 ラリーを試してみる②
- 第6回 ボールの回転とコース①
- 第7回 ボールの回転とコース②
- 第8回 ボールの回転とコース③
- 第9回 サーブの習得①
- 第10回 サーブの習得②
- 第11回 ダブルスのゲームを楽しむ①
- 第12回 ダブルスのゲームを楽しむ②
- 第13回 ダブルスのゲームを楽しむ③
- 第14回 ダブルスのゲームを楽しむ④
- 第15回 シングルのゲームを楽しむ①
- 第16回 シングルのゲームを楽しむ②
- 第17回 シングルのゲームを楽しむ③
- 第18回 シングルのゲームを楽しむ④
- 第19回 審判法の理解と実践
- 第20回 リーグ戦①
- 第21回 リーグ戦②
- 第22回 リーグ戦③
- 第23回 リーグ戦④
- 第24回 リーグ戦⑤
- 第25回 リーグ戦⑥
- 第26回 リーグ戦⑦
- 第27回 リーグ戦⑧
- 第28回 まとめ

#### 【成績評価の方法】

出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

#### 【参考文献】

適宜指示する。(必要に応じて資料を配布する。)

科目名 クラス 講義区分		
健康・スポーツ学演習 - < 2009 >		
見正秀基 志水正俊	161 <通期> 162 <通期>	2 単位

#### 【講義概要】

東京オリンピックにおいてバレーボール競技が正式種目に制定されて以来、世界中で親しまれる種目となってきたが、昨今はビーチバレーやソフトバレーも普及しつつある。本演習では6人制バレーの実践を主として考えているが、履修学生のリクエストがあれば9人制バレー、ソフトバレーの導入も考えたい。

#### 【学習目標】

授業の目標はゲーム形式で競技の本質を理解させたいと願っているが、より楽しくゲームに親しめるよう基本的な分習法から全習法へと展開していく。なお履修者のスキルに差異もあると思われるが、実践レベルは初心者が競技を楽しめる基準で展開していくことを考えている。

#### 【講義計画】

- 第1回 オリエンテーション  
基礎的な身体トレーニングと基礎技術
- 第2回 基礎的な身体トレーニング バレーボールの特性・基本的技術の練習
- 第3回 基礎的な技術の練習
- 第4回 スキルテスト (パス、スパイク、サーブ)
- 第5回 基本技術の練習 (パス、スパイク、ブロック、サーブ)
- 第6回 基本技術の練習 (パス、スパイク、ブロック、サーブ)
- 第7回 応用技術の練習 (サーブレシーブフォーメーションと三段攻撃)
- 第8回 応用技術の練習 (サーブレシーブフォーメーションと三段攻撃)
- 第9回 ゲーム形式の練習 (アンダーハンドサーブのみ)
- 第10回 (スパイクヒットを用いないパスゲーム)  
ゲーム形式の練習 (サーブは2本まで許容、サーブレシーブに主眼をおく)
- 第11回 (スパイクヒットを用いないパスゲーム)  
ゲーム形式の練習 (サーブは2本まで許容、サーブレシーブに主眼をおく)
- 第12回 (スパイクヒットを用いないパスゲーム)  
ゲーム形式の練習 (サーブは2本まで許容、サーブレシーブに主眼をおく)
- 第13回 リーグ戦Ⅰ (Step 1) 審判法の説明 リーグ戦6試合 (1面2試合)
- 第14回 リーグ戦9試合 (1面3試合)
- 第15回 リーグ戦9試合 (1面3試合)
- 第16回 リーグ戦9試合 (1面3試合)
- 第17回 リーグ戦Ⅱ (Step 2) セッター練習 リーグ戦6試合 (1面2試合)
- 第18回 リーグ戦Ⅱ (Step 2) セッター練習 リーグ戦6試合 (1面2試合)
- 第19回 リーグ戦9試合 (1面3試合)
- 第20回 リーグ戦Ⅲ (Step 3) 二段トスとスパイクの練習 リーグ戦6試合 (1面2試合)
- 第21回 リーグ戦Ⅲ (Step 3) 二段トスとスパイクの練習 リーグ戦6試合 (1面2試合)
- 第22回 リーグ戦Ⅳ (Step 4) リーグ戦6試合 (1面3試合)
- 第23回 リーグ戦Ⅳ (Step 4) リーグ戦6試合 (1面3試合)
- 第24回 リーグ戦Ⅳ (Step 4) リーグ戦6試合 (1面3試合)
- 第25回 リーグ戦Ⅳ (Step 4) リーグ戦6試合 (1面3試合)
- 第26回 リーグ戦Ⅳ (Step 4) リーグ戦6試合 (1面3試合)
- 第27回 リーグ戦Ⅳ (Step 4) リーグ戦6試合 (1面3試合)
- 第28回 トーナメント戦  
まとめ  
※履修学生の皆さんのスキルの程度により、適宜アレンジする事も考えられる。

#### 【成績評価の方法】

出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

#### 【参考文献】

適宜指示する。(必要に応じて資料を配布する。)



科目名 クラス 講義区分		
健康・スポーツ学演習 - < 2009 >		
高 成 廈	166 < 通期 >	2 単位

**【講義概要】**

水泳は年齢に関係なく楽しむことができる健康的なスポーツです。それは全身運動であると同時に心肺機能を高める有酸素運動です。平泳ぎ、クロール、背泳ぎ、バタフライの習得にチャレンジしてください。初心者から経験者まで自己の泳ぎを分析し、無駄のない美しいフォームでの泳ぎにチャレンジしてください。長くバランスよく効率的な泳ぎ方ができるよう授業を展開します。

**【学習目標】**

各種4泳法、平泳ぎ、クロール、背泳ぎ、バタフライの泳法習得と水泳を生涯スポーツとして生活の中に取り入れ心身を豊かに育むことをねらいとする。

**【講義計画】**

第1回 【春学期】

- オリエンテーション（服装と用具、健康状態と水泳経験の確認）
- 第2回 水中運動と安全
- 第3回 水中運動の特徴 ①水中環境の特性 ②水泳・水中運動の利点と効果
- 第4回 浮き身、基本姿勢（ストリームライン）の確認
- 第5回 クロール その1 ①キック ②ストローク ③息つぎ
- 第6回 クロール その2 ①25メートルの回復 ②50メートル
- 第7回 背泳ぎ その1 ①ストリームラインの確認 ②キック ③ストローク
- 第8回 背泳ぎ その2 ①25メートル（ゆっくり、正確なフォームで）

- 第9回 タイムの測定、リレー、潜水
- 第10回 水中バレーボール、水球、水中ウォーキング
- 第11回 平泳ぎ
- 第12回 バタフライ
- 第13回 持久泳
- 第14回 まとめ

第15回 【秋学期】

- 健康状態、体調の確認
- クロール、背泳ぎの復習 その1
- クロール、背泳ぎの復習 その2
- 平泳ぎ その1 ①足の動き ②手の動き ③息つぎ
- 平泳ぎ その2 ①ストロークとキックのタイミングを意識しゆっくり泳ぐ
- バタフライ ①ドルフィンキック（ストリームラインでのキック、ビート板） ②ストローク ③10～25メートル泳（ゆっくり、正確なフォームで）

- 第16回 #
- 第17回 #
- 第18回 #
- 第19回 #
- 第20回 #
- 第21回 #
- 第22回 #
- 第23回 #
- 第24回 #
- 第25回 #
- 第26回 #
- 第27回 #
- 第28回 まとめ

**【成績評価の方法】**

出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

科目名 クラス 講義区分		
健康・スポーツ学演習 - < 2009 >		
前 山 直	171 < 通期 >	2 単位

**【講義概要】**

健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。

カナダ生まれのキンボールを使って、リードアップゲーム、ルールバリエーション、オフィシャルゲームを体験する。ゲームを通して人と人との繋がりの大切さを実感出来ればいいなあと思います。みんなの笑顔で気持ちのいい汗を流しましょう。

**【学習目標】**

- ・キンボールを体験し、種目の特性に触れながら技能の上達を図る。
- ・生涯にわたるスポーツライフを設計し、実践する能力を育成する。
- ・グループでの活動に必要な態度を身につける。

**【講義計画】**

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 リードアップゲーム ①
- 第3回 リードアップゲーム ②
- 第4回 ルールバリエーション紹介
- 第5回 ゲーム体験
- 第6回 フェイント ①個人技術の上達を図る
- 第7回 フェイント ②チーム練習
- 第8回 ゲーム体験
- 第9回 ルール確認及びレフリーのジェスチャーについて
- 第10回 リーグ戦 ①
- 第11回 リーグ戦 ②
- 第12回 リーグ戦 ③
- 第13回 チーム練習
- 第14回 リーグ戦 ④
- 第15回 リーグ戦 ⑤
- 第16回 オフィシャルルール紹介
- 第17回 チーム練習 ゲーム
- 第18回 チーム練習 ゲーム
- 第19回 チーム練習 ゲーム
- 第20回 リーグ戦 ①
- 第21回 リーグ戦 ②
- 第22回 リーグ戦 ③
- 第23回 チーム練習
- 第24回 リーグ戦 ④
- 第25回 リーグ戦 ⑤
- 第26回 リーグ戦 ⑥
- 第27回 リーグ戦 ⑦
- 第28回 まとめ

**【成績評価の方法】**

出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

**【参考文献】**

適宜指示する。（必要に応じて資料を配布する。）

科目名 クラス 講義区分		
健康・スポーツ学演習 - < 2009 >		
竹内 靖子	181 < 通期 >	2 単位

**【講義概要】**

ニュースポーツやレクリエーションは、自分にあったスポーツ探し、体を動かす機会の少ない人の健康づくりや世代間コミュニケーションの促進などを目的に、体力や年齢に関係なくだれもが気軽に楽しめる活動として普及しています。授業では、ニュースポーツ・レクリエーションを通じて活動の楽しさを追求し、からだところの健康づくり、仲間作り、環境づくりを実践しながら学びます。

**【学習目標】**

体力や年齢に関係なく楽しめる様々なニュー・コンセプト・スポーツやレクリエーションを体験、発表する。今後、様々な場所で活用できるように参加者のニーズや状況にあわせアレンジ（工夫）する力を身につける。

**【講義計画】**

- 第1回 オリエンテーション（授業概要とアンケート）
- 第2回 アイスブレイキングゲーム（ゲームづくり）
- 第3回 チャレンジ・ザ・ゲーム（大縄飛びなど）
- 第4回 アイスブレイキングゲーム発表
- 第5回 スポンジテニス1
- 第6回 スポンジテニス2
- 第7回 ソフトバレー1
- 第8回 ソフトバレー2
- 第9回 ガラッキー・ペタンク・ソフトローンボール
- 第10回 公式ワナグ・クロリティ・スカイクロス・ビーンボウリング
- 第11回 ターゲットバードゴルフ
- 第12回 ソフトラクロス
- 第13回 ユニホッカー（ピロポロ）
- 第14回 その他のニュースポーツ紹介とまとめ
- 第15回 アレンジレクリエーション（グループ発表オリエンテーション）
- 第16回 様々なアレンジ1：バレー系
- 第17回 様々なアレンジ2：ラケット系
- 第18回 様々なアレンジ3：その他
- 第19回 その他ニュースポーツ紹介とグループ発表準備
- 第20回 グループ発表1
- 第21回 グループ発表2
- 第22回 グループ発表3
- 第23回 グループ発表4
- 第24回 グループ発表5
- 第25回 グループ発表6
- 第26回 グループ発表7
- 第27回 グループ発表8
- 第28回 まとめ

**【成績評価の方法】**

出席率、学習態度、発表、レポート（ノート）等から総合評価する。

**【教科書】**

必要に応じて紹介または資料を配布する

**【参考文献】**

必要に応じて紹介または資料を配布する

科目名 クラス 講義区分		
健康・スポーツ学演習 - < 2009 >		
高橋 ひとみ	185 < 通期 >	2 単位

**【講義概要】**

一般的な持久力を高める有酸素運動に、柔軟性・筋力・瞬発力などの要素も取り入れたエアロビクスを皆で楽しみながら実践する。ついで、グループで簡単なエアロビクスを創作し、互いに教示し、一連のエアロビクスを創り、皆で楽しく実施する。

**【学習目標】**

大学生の多くは、発育発達的面から考えて運動が必要な時期に受験勉強を強いられ、基礎体力が低下している。さらに、運動習慣を身につけていないため、今後の運動生活は期待できない。

そこで、自己の体力にあわせて、無理なく、楽しく、手軽に実施することができるエアロビクスの実践を通して、身体的・精神的・社会的な運動の効果を体得し「生涯スポーツ」に繋げることを目的とする。

**【講義計画】**

- 第1回 オリエンテーション・エアロビクスを始めよう(1)
- 第2回 エアロビクスを始めよう(2)
- 第3回 ビートで楽しもう(1)
- 第4回 ビートで楽しもう(2)
- 第5回 ビートで楽しもう(3)
- 第6回 リズムに乗ろう(1)
- 第7回 リズムに乗ろう(2)
- 第8回 リズムに乗ろう(3)
- 第9回 動きにアクセントをつけよう(1)
- 第10回 動きにアクセントをつけよう(2)
- 第11回 動きにアクセントをつけよう(3)
- 第12回 一連の動きを楽しもう(1)
- 第13回 一連の動きを楽しもう(2)
- 第14回 一連の動きを楽しもう(3)
- 第15回 一連の動きを楽しもう(4)
- 第16回 ダイナミックに弾もう(1)
- 第17回 ダイナミックに弾もう(2)
- 第18回 ダイナミックに弾もう(3)
- 第19回 空間を大きく使おう(1)
- 第20回 空間を大きく使おう(2)
- 第21回 空間を大きく使おう(3)
- 第22回 正確な動きを身につけよう(1)
- 第23回 正確な動きを身につけよう(2)
- 第24回 正確な動きを身につけよう(3)
- 第25回 一連の動きを楽しもう(5)
- 第26回 一連の動きを楽しもう(6)
- 第27回 一連の動きを楽しもう(7)
- 第28回 一連の動きを楽しもう(8)・まとめ

**【成績評価の方法】**

レポート 20% 出席 80%

出席率、学習態度、レポートなどから総合的に評価する。

科目名 クラス 講義区分	
健康・スポーツ学講義－健康科学概論 <春集>	
高橋ひとみ	4単位

科目名 クラス 講義区分	
健康・スポーツ学講義 [2]－コーチング論 <春>	
松本直也	2単位

**【講義概要】**

健康の捉え方は時代により、国・地域により異なる。そこで、まず健康の概念、健康の意識について学習する。

その後、人間の成長との関連から、健康の維持増進のための運動と栄養と休養についてみていく。

さらに、現代社会は国際社会であり、個人の健康は社会の健康の上に成立していることから、広くヘルス・プロモーションやセーフティ・プロモーションの考え方について学習していく。

**【学習目標】**

理論にとどまらず、自分の健康・家族の健康・地域社会の健康のために実践する態度を養ってほしい。特に、大学生は21世紀を担う子どもの健康問題に直接影響力を持つ世代なので、責任を持って子育てにあたってもらいたいとの思いから「子どもの健康問題」を重視し、最初に学習するので、将来に役立ててほしい。

**【講義計画】**

- 第1回 健康の概念
- 第2回 子どもの健康問題(1)
- 第3回 子どもの健康問題(2)
- 第4回 子どもの健康問題(3)
- 第5回 子どもの健康問題(4)
- 第6回 子どもの健康問題(5)
- 第7回 運動と健康(1)
- 第8回 運動と健康(2)
- 第9回 発達と運動(1)
- 第10回 発達と運動(2)
- 第11回 発達と運動(3)
- 第12回 発達と運動(4)
- 第13回 食生活と健康(1)
- 第14回 食生活と健康(2)
- 第15回 食生活と健康(3)
- 第16回 休養と健康(1)
- 第17回 休養と健康(2)
- 第18回 休養と健康(3)
- 第19回 社会生活と健康(1)
- 第20回 社会生活と健康(2)
- 第21回 社会生活と健康(3)
- 第22回 ストレスと健康(1)
- 第23回 ストレスと健康(2)
- 第24回 ライフステージと健康管理(1)
- 第25回 ライフステージと健康管理(2)
- 第26回 ライフステージと健康管理(3)
- 第27回 保健行動と健康管理システム(1)
- 第28回 保健行動と健康管理システム(2)

**【成績評価の方法】**

試験 80% レポート 20%

出席はとらないが、授業中に小レポートを書いて提出してもらうことがある。加えて、期末テスト、授業中の態度により総合的に評価する。

**【教科書】**

高橋ひとみ 子どもの近見視力不良 農文協

**【備考】**

<02～07生>のみ履修可

**【講義概要】**

本講義では、スポーツ現場におけるスポーツコーチに焦点を当てながら、日本的スポーツ環境の問題点、トップアスリートのトレーニング方法、生涯スポーツと健康などスポーツを取り巻く様々な状況について考察を深めたいと思います。

**【学習目標】**

本講義では、体育・スポーツ指導におけるコーチングの基礎理論と実際について理解を深めることを目的とします。スポーツコーチの仕事について理解を深め、コーチの哲学や責任について、文献だけでなく、実際の現場の視点からアプローチしていきます。また、パワーポイントを中心に授業を展開し、VTR映像、新聞資料等からコーチングと関わる様々な日常的な問題を取り上げます。

**【講義計画】**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 日本のスポーツ観①
- 第3回 日本のスポーツ観②
- 第4回 スポーツコーチとは①
- 第5回 スポーツコーチとは②
- 第6回 コーチングの理論①
- 第7回 コーチングの理論②
- 第8回 小テスト
- 第9回 コーチングの現状  
～サッカーユニバーシアード日本代表チームの戦略とチーム作り～
- 第10回 競技力向上とIT(映像を活用したゲーム分析)
- 第11回 メンタルトレーニングの理論と実際①
- 第12回 メンタルトレーニングの理論と実際②
- 第13回 これからのコーチングについて  
～生涯スポーツの現状と課題～
- 第14回 まとめ

**【成績評価の方法】**

試験 60% レポート 20% 出席 20%

出席点、授業毎のコメント感想、小テスト及びまとめのテスト等を総合的に評価します。

**【備考】**

<08～09生>のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
健康・スポーツ学講義 [2] - スポーツ論 <秋>	
高 成 廈	2 単位

**【講義概要】**

本講義は、現代社会におけるスポーツの様々な諸問題を取り上げ、講義を展開する。具体的な事例として、企業スポーツが廃部・休部に追い込まれ崩壊している現状やスポーツ界におけるプロ化の動向やその背景について検討し追究する。海外のスポーツ事情、スポーツビデオ、新聞の切抜き等を素材にしてスポーツの意義や重要性について理解を深める。

**【学習目標】**

現代社会におけるスポーツの基礎的な知識を学習し、自己のスポーツ観を確立させる。

**【講義計画】**

- 第1回 オリエンテーション 講義の概略説明
- 第2回 現代社会の特徴とスポーツ
- 第3回 VTR「眠れる再生力を呼びさませ」
- 第4回 体育とスポーツの変遷
- 第5回 企業スポーツの変遷
- 第6回 企業スポーツ VTR「日本人と企業スポーツ」
- 第7回 中間まとめ (テスト)
- 第8回 プロスポーツについて
- 第9回 JFAテクニカルレポート「2006 FIFA WORLD CUP GERMANY」
- 第10回 海外のスポーツ事情①アメリカ VTR「日本野球は 一宝の山ー 大リーグ経営革命の秘密」
- 第11回 海外のスポーツ事情②アルゼンチン VTR「マラドーナ」
- 第12回 海外のスポーツ事情③オランダ VTR「アヤックスの選手育成法」
- 第13回 Jリーグの百年構想
- 第14回 最終まとめ (テスト)

**【成績評価の方法】**

①出席 ②授業毎の要約・感想 ③テスト等を総合的に評価する。

**【参考文献】**

講義でその都度、指示する。

**【備考】**

<08～09生>のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
健康・スポーツ学講義 [2] - レクリエーション概論 <秋>	
竹 内 靖 子	2 単位

**【講義概要】**

本講義は、レクリエーション入門である。さまざまな社会問題が生じている今、健康、心の豊かさや交流を促進し、個々の生活を豊かにする方法の1つとして「レクリエーション」が注目されている。講義では、最初に「レクリエーション」とは何なのか、基本理論(定義・歴史・現状・援助論)を学習する。特にレクリエーション・スポーツ(レクスポーツ)はどのような場所で行われているのか、地域・福祉領域における対象者のニーズに合わせた(アレンジした)レクスポーツ援助を学び、企画(運営)・発表・評価する力を高める。(レクスポーツ活動に参加する意欲または興味のある学生の受講をもとめます。)

**【学習目標】**

学生ひとりひとりが、レクスポーツ活動を活用し、自らの健康づくり、身近な人の健康づくり、健康的な社会づくりを考え実践できるようにする。

**【講義計画】**

- 第1回 オリエンテーション(授業概要・アンケート(レクスポーツのイメージ)等)
- 第2回 健康と健康(体力)づくり(個人・地域)
- 第3回 レクリエーション(レクスポーツ)基礎理論①(定義・効果・歴史・課題)
- 第4回 レクリエーション(レクスポーツ)基礎理論②  
演習:私とレクスポーツ
- 第5回 レクスポーツ援助論①(アセスメント→プランニング→実施→評価)
- 第6回 レクスポーツ援助論②
- 第7回 援助者の活動と役割(ホスピタリティ・安全)
- 第8回 中間まとめ(試験)
- 第9回 レクスポーツ援助の実際①(教育・職場・医療・福祉領域等)
- 第10回 レクスポーツ援助の実際②
- 第11回 私の地域のレクスポーツ資源調査
- 第12回 私の地域のレクスポーツ企画
- 第13回 プレゼンテーション
- 第14回 まとめ(自己評価レポート作成)

**【成績評価の方法】**

平常点(出席・受講態度)・制作物・筆記試験・発表点

**【教科書】**

必要に応じて紹介または資料を配布する

**【参考文献】**

必要に応じて紹介または資料を配布する

**【備考】**

<08～09生>のみ履修可

科目名 クラス 講義区分	
言語学概論 <通期>	
西岡武彦	4単位

**【講義概要】**

本講座は著名な言語研究者サピア、ウォーフ、ソシュールの言語観を考察し言語研究のあり方を概観するとともに、最近の言語学の潮流について紹介していく。

**【学習目標】**

言語研究の面白さを実感することを目標に据え授業を展開していく。

**【講義計画】**

- 第1回 サピアの言語論(1)
- 第2回 サピアの言語論(2)
- 第3回 サピアの言語論(3)
- 第4回 サピアの言語論(4)
- 第5回 ウォーフの言語論(1)
- 第6回 ウォーフの言語論(2)
- 第7回 ウォーフの言語論(3)
- 第8回 ウォーフの言語論(4)
- 第9回 ソシュールの言語論(1)
- 第10回 ソシュールの言語論(2)
- 第11回 ソシュールの言語論(3)
- 第12回 アメリカの言語学(1)
- 第13回 アメリカの言語学(2)
- 第14回 アメリカの言語学(3)
- 第15回 言語の相対性と普遍性(1)
- 第16回 言語の相対性と普遍性(2)
- 第17回 言語の相対性と普遍性(3)
- 第18回 言語学の新たな潮流(1)
- 第19回 言語学の新たな潮流(2)
- 第20回 言語学の新たな潮流(3)
- 第21回 言語学の新たな潮流(4)
- 第22回 言語学の新たな潮流(5)
- 第23回 言語学の新たな潮流(6)
- 第24回 言語学の新たな潮流(7)
- 第25回 言語学の新たな潮流(8)
- 第26回 言語学の新たな潮流(9)
- 第27回 言語学の新たな潮流(10)
- 第28回 言語学の新たな潮流(11)
- 第29回 言語学の新たな潮流(12)
- 第30回 総論

**【成績評価の方法】**

試験 50% 出席 50%

**【参考文献】**

授業中に紹介していく。

科目名 クラス 講義区分	
言語学－理論言語学入門 <春集>	
南條健助	4単位

**【講義概要】**

「理論言語学 (theoretical linguistics)」とは、理論物理学と同じ手法で言語を科学的に研究し、人間の脳の中にあると仮定されている言語機能 (language faculty) の仕組みを解明しようとする経験科学である。この授業では、言語学のほぼ全分野を概観し、言語の本質にかかわる普遍的な原理を探りながら、人間の言語機能を明らかにし、さらには人間の本質に迫りたい。

なお、英語で書かれた教科書を用いるので、例証される項目や例文も、ほとんどが英語から採られることを予めお断りしておく。受講生があまり多くなければ、毎回、教科書を予習してきてもらい、指名して、英文講読の要領で授業を進めたい。

**【学習目標】**

理論言語学研究のほぼ全領域を概観し、その研究方法と最新の研究成果に関する基本的な知識を身に付けることを目標とする。

**【講義計画】**

- 第1回 言語学とは何か
- 第2回 言語とは何か
- 第3回 言語学研究の歴史
- 第4回 言語学研究の方法
- 第5回 音声学・音韻論(1)
- 第6回 音声学・音韻論(2)
- 第7回 音声学・音韻論(3)
- 第8回 音声学・音韻論(4)
- 第9回 形態論(1)
- 第10回 形態論(2)
- 第11回 統語論(1)
- 第12回 統語論(2)
- 第13回 統語論(3)
- 第14回 統語論(4)
- 第15回 意味論(1)
- 第16回 意味論(2)
- 第17回 語用論(1)
- 第18回 語用論(2)
- 第19回 言語と社会(1)
- 第20回 言語と社会(2)
- 第21回 言語と精神(1)
- 第22回 言語と精神(2)
- 第23回 言語変化
- 第24回 対照言語学
- 第25回 普遍文法(1)
- 第26回 普遍文法(2)
- 第27回 普遍文法(3)
- 第28回 普遍文法(4)

**【成績評価の方法】**

試験 100% レポート 0% 出席 100%

この授業は英語を中心とした「理論言語学」の講義であり、英語で書かれた教科書を用いる。易しい授業ではないので、意欲を持って、真剣に受講しなければ、単位の取得はきわめて難しい。板書はしないが、講義を聴きながら各自できちんとノートを取り、復習は欠かさないこと。受講生があまり多くなければ、全員に教科書を予習してきてもらい、指名して、英文講読の要領で授業を進めるので、その場合には、毎回の教科書の予習も義務付ける。

毎回出席を取る。4回以上欠席した者には、学期末試験の点数にかかわらず、単位は与えられない。欠席は3回以内にする。遅刻や早退を管理するため、教室では座席を指定する予定である。なお、授業中の私語は、他の真面目な受講生の学習を妨害する行為であり、私語をする学生には即座に退室してもらい、その日は欠席扱いとする。

成績は学期末試験の結果のみに基づいて決定する。60点以上が合格である。

要するに、この授業は、「出席」と「試験」の両方を重視し、どちらか一方が不十分であっても単位は与えられない。したがって、毎回出席し、欠席がゼロであったとしても、試験で60点以上を取らなければ単位は与えられないし、試験で満点を取っても、欠席が4回以上であれば単位は与えられない。

**【教科書】**

開講時までに指定するので、必ず購入しておくこと。また、補助教材として、必要に応じてプリントを配布する。

**【参考文献】**

授業中に紹介する。

科目名 クラス 講義区分	
言語と社会 <秋集>	
大 原 始 子	4 単位

**【講義概要】**

一つのこと・ものを表現するとき、人によって「ことば」が違う。どこが、どのように異なるのか、なぜ異なるのかを知ることは、言語の性質そのものを知ることであり、興味深い。地域差、世代差、男女差、社会階層差に注目し、日本語や英語に見られる「ことば」のバリエーション(変異形)とその構造を知ることや、日本語と英語の待遇表現、敬意表現の違いを理解することを通して、言語と社会の関わりを概観していく。

**【学習目標】**

言語(文法、音声、語彙)は社会と密接に関わりながら、変化していく。身の回りの「ことば」に敏感になり、「ことば」に対する柔軟な見方を見につけることを目指す。

**【講義計画】**

- 第1回 <オリエンテーション>  
言語と社会の関係を探る研究について  
(注) 授業の進度により、授業計画や内容を変更する場合があります。
- 第2回 言語と方言 日本と世界の方言  
第3回 方言の標準化 方言・標準語の使用意識  
第4回 公用語と国語  
第5回 公用語の選択と国家  
第6回 日本における英語の第二公用語化  
第7回 世界の英語～イギリス・アメリカ  
第8回 世界の英語～カナダ・オーストラリア・ニュージーランド  
第9回 世界の英語～新英語—アジア・アフリカ  
第10回 多言語国家の教育政策  
第11回 ニ言語使用・多言語使用  
第12回 コード・スイッチング  
第13回 言語選択とアイデンティティ  
第14回 社会階層による発音の違い～イギリス・アメリカ  
第15回 過剰訂正  
第16回 ことばの持つ「明らかな威信」と「隠れた威信」  
第17回 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション  
第18回 ジェスチャー  
第19回 若者ことばとシルバーことば  
第20回 若者ことばのアイデンティティ  
第21回 アクセントの平板化  
第22回 敬意表現と敬語  
第23回 女性ことばのアイデンティティ  
第24回 敬語とタメ口 コンビニ敬語  
第25回 丁寧表現(ポライトネス)の違い～日本・アメリカ・ドイツ  
第26回 ポライトネス・ストラテジー(ブラウン&レビンソン)  
第27回 日本語と英語の丁寧表現の表し方  
第28回 復習

**【成績評価の方法】**

試験 90% レポート 10%  
レポートと期末の論述試験の結果で評価する。  
レポートの評価割合は10%であるが、必ず提出しなければならない。

**【教科書】**

田中春美『社会言語学への招待』ミネルヴァ書房

**【参考文献】**

適宜指示していく。

**【備考】**

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
言語表現論 <通期>	
西 岡 武 彦	4 単位

**【講義概要】**

本講座は主に英語を中心として文の情報構造に焦点を当て、文の意味を探っていく授業を展開する。

**【学習目標】**

文の意味は単語の意味の寄せ集めで決まるものではなく、談話の中に位置づけられることにより決まる。この点を様々な角度から確認していくことを目標にする。

**【講義計画】**

- 第1回 情報構造を考える(1)  
第2回 情報構造を考える(2)  
第3回 情報構造を考える(3)  
第4回 情報構造を考える(4)  
第5回 情報構造を考える(5)  
第6回 Inversion(1)  
第7回 Inversion(2)  
第8回 Inversion(3)  
第9回 Inversion(4)  
第10回 Inversion(5)  
第11回 日本語の倒置(1)  
第12回 日本語の倒置(2)  
第13回 Gapping(1)  
第14回 Gapping(2)  
第15回 Gapping(3)  
第16回 日本語の空所化(1)  
第17回 日本語の空所化(2)  
第18回 日本語の空所化(3)  
第19回 強調構文と前提(1)  
第20回 強調構文と前提(2)  
第21回 強調構文と前提(3)  
第22回 受動文(1)  
第23回 受動文(2)  
第24回 受動文(3)  
第25回 Bridging(1)  
第26回 Bridging(2)  
第27回 Bridging(3)  
第28回 Bridging(4)  
第29回 Bridging(5)  
第30回 Bridging(6)

**【成績評価の方法】**

試験 50% 出席 50%

**【参考文献】**

授業中に適宜紹介する。

**【備考】**

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科目名	クラス	講義区分
現代アジア論 <通期>		
今 澤 浩 二	4 単位	

**【講義概要】**

現在、経済的にも大きく発展し、世界中から注目されているアジア。そこは広大な世界であり、さまざまな政治・経済、歴史、文化、民族、言語がある。それゆえ地域によってさまざまな特徴を見せ、多くの魅力をもって人々をひきつける。

この講義は、こうしたアジア世界のさまざまな地域の政治・経済や社会、文化などについて、複数の講師がインテグレーション形式で担当する。東アジア、東南アジア、南アジア、内陸アジア、西アジアなど、それぞれの講師が専門とするアジア各地の「現代」について論じ、アジア世界の持つ魅力や、現在直面している諸問題を検討する。

**【学習目標】**

これまでアジアについては、経済発展と貧困、紛争の頻発といった問題がクローズアップされてきたが、近年、経済のグローバル化のもと多くの地域で少子高齢化が進み、国境を越えて人も文化も融合するといった新しい現象も見られるようになっている。こうした事柄を表面的に理解するだけでなく、その背後にある思想や文化にも洞察を深めることを目標とする。

**【講義計画】**

- 第1回 アジアとは
- 第2回 朝鮮半島における現代文化①
- 第3回 朝鮮半島における現代文化②
- 第4回 朝鮮半島における現代文化③
- 第5回 日・韓スポーツ①
- 第6回 日・韓スポーツ②
- 第7回 『中国』、『拡大中国』、そして『中華の世界』①
- 第8回 『中国』、『拡大中国』、そして『中華の世界』②
- 第9回 『中国』、『拡大中国』、そして『中華の世界』③
- 第10回 中国伝統思想の現代的意義①
- 第11回 中国伝統思想の現代的意義②
- 第12回 中国伝統思想の現代的意義③
- 第13回 歴史から読む現代ベトナム①
- 第14回 歴史から読む現代ベトナム②
- 第15回 東南アジア地域の捉え方①
- 第16回 東南アジア地域の捉え方②
- 第17回 東南アジア地域の捉え方③
- 第18回 現代インドネシアのメディア
- 第19回 東南アジアにおけるメディアのグローバル化①
- 第20回 東南アジアにおけるメディアのグローバル化②
- 第21回 内陸アジア地域研究①
- 第22回 内陸アジア地域研究②
- 第23回 内陸アジア地域研究③
- 第24回 西アジア・イスラーム世界①
- 第25回 西アジア・イスラーム世界②
- 第26回 西アジア・イスラーム世界③
- 第27回 南アジアの開発と文化①
- 第28回 南アジアの開発と文化②

**【成績評価の方法】**

レポート 60% 出席 40%

初回の授業で、講義内容や成績評価の方法などについて詳しく説明するので、必ず出席すること。

**【参考文献】**

授業中に適宜紹介する。

**【備考】**

<02~07生>は読替一覧参照の事。  
インテグレーション科目

科目名	クラス	講義区分
現代英語圏文化の諸問題-愛と孤独と死 <通期>		
伊 藤 貞 基	4 単位	

**【講義概要】**

この世に人間が存在する限り、愛と孤独と死は人間にとって永遠のテーマである。これらのテーマはその種類も千差万別、その現れ方も多種多様、また、文化によっても異なる。現代英語圏文化の中における愛と孤独と死の形象の一端を優れたアメリカの短編小説の中に探り、人生におけるこれらの基本的な人間的状況がアメリカ文化や社会の中でどのような形をとって現れ、アメリカ人たちはそれらにどのように向き合いながら彼等の人生を生きているのかを観察する。取り上げる作品はいずれも第二次世界大戦中から戦後にかけての2、30年間に発表されたもので、いずれもそれぞれの作家にとって重要な作品である。

**【学習目標】**

愛や孤独や死をテーマにした20世紀半ば以降のアメリカの短編小説を読み、人間や人生についての洞察を得ると同時にアメリカ人やアメリカ社会についての理解を深める。英語の読解力の向上を目指すの言うまでもない。取り上げる作家作品は〔授業計画〕を参照のこと。全体で100頁を超えるが、出来れば最後まで読み切りたい。授業は学生による訳読を中心に進める。いずれか一つの短編について感想文を求める予定。

**【講義計画】**

- 第1回 Orientation
- 第2回 Truman Capote, "Miriam"
- 第3回 " "
- 第4回 " "
- 第5回 " "
- 第6回 " "
- 第7回 Bernard Malamud, "The First Seven Years"
- 第8回 " "
- 第9回 " "
- 第10回 " "
- 第11回 " "
- 第12回 Eudora Welty, "A Curtain of Green"
- 第13回 " "
- 第14回 " "
- 第15回 " "
- 第16回 John Updike, "I will Not Let Thee Go, Except Thou Bless Me"
- 第17回 " "
- 第18回 " "
- 第19回 " "
- 第20回 Joyce Carol Oates, "The Madwoman"
- 第21回 " "
- 第22回 " "
- 第23回 " "
- 第24回 Flannery O'Connor, "A Good Man Is Hard to Find"
- 第25回 " "
- 第26回 " "
- 第27回 " "
- 第28回 " "
- 第29回 " "

**【成績評価の方法】**

試験 50% レポート 20% 出席 30%

**【教科書】**

川端・新井・植野・石川編注『愛と孤独と死の物語』(Human Aspects in America) 南雲堂

**【参考文献】**

授業中に適宜指示する。

**【備考】**

<02~07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
現代英語圏文化の諸問題－さまよえる人々 <春集>	
岡田 章子	4単位

**【講義概要】**

19世紀から現代に至るまでイギリス社会は近代化に向かって大きく揺れ動いた。産業革命、アメリカの独立、ナポレオンの時代を経て、全世界の変動の中でイギリスも変化を遂げた。それまでののどかな田園であった農村は工場が立ち並び、それによって汚染された。若者は都会へ出かけて、時には都会の悪に染まった。村には孤独な老人のわびしい生活しか見られなくなった。女性や子どもも孤独と貧困の中に置き去りにされることもあった。ごく普通の生活を送る人々の生活も影響を受けることになったのである。そのような社会から疎んじられた人々の姿をWordsworthはその詩作の中で描き出した。The Preludeの中で“my heart was all/Given to the People, and my love was theirs”と詠っている。本講義ではLyrical Balladsの中から“The Thorn” “The Female Vagrant” “The Complaint of a forsaken Indian Woman”などを読みながら、19世紀イギリス社会でさまよえる人々を論じ、さらには現代の英語圏諸国の問題について考察する。

**【学習目標】**

Lyrical Balladsを読み、英語の詩に親しみながら、さまよえる人々について理解を深める。

**【講義計画】**

- 第1回 イギリス社会の近代化について
- 第2回 イギリス社会の近代化について
- 第3回 19世紀のイギリス社会
- 第4回 19世紀のイギリス社会
- 第5回 William Wordsworthについて
- 第6回 William Wordsworthについて
- 第7回 “The Thorn”講読(1)
- 第8回 “The Thorn”講読(1)
- 第9回 同上(2)
- 第10回 同上(2)
- 第11回 同上(3)
- 第12回 同上(3)
- 第13回 “The Last of the Flock”講読
- 第14回 “The Last of the Flock”講読
- 第15回 “Goody Blake and Hurry Gill”講読
- 第16回 “Goody Blake and Hurry Gill”講読
- 第17回 “The Female Vagrant”講読(1)
- 第18回 “The Female Vagrant”講読(1)
- 第19回 同上(2)
- 第20回 同上(2)
- 第21回 同上(3)
- 第22回 同上(3)
- 第23回 “The Complaint of a forsaken Indian Woman”講読(1)
- 第24回 “The Complaint of a forsaken Indian Woman”講読(1)
- 第25回 同上(2)
- 第26回 同上(2)
- 第27回 同上(3)およびまとめ
- 第28回 テスト

**【成績評価の方法】**

試験 70% レポート 20% 出席 10%  
定期テストのほか、随時小テストを実施し、評価に加える。

**【教科書】**

ワーズワース (上島建吉注釈) リリカル・バラッズ (III) 一人と社会 研究社

**【参考文献】**

Patric Campbell: Wordsworth and Coleridge: Lyrical Ballads--Critical Perspective (MacMillan, 1991)

**【備考】**

<02~07生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
現代英語圏文化の諸問題－女性の自立 <通期>	
宮之原 匡子	4単位

**【講義概要】**

現代、女性の自立はある程度確立されたかのように思える。しかし、過去、女性は男性に従い、仕えるべき存在で、自分の意見を述べることも許されず、その活動は制限され続けてきた。

本講義ではシェイクスピアの劇作品を主に取り上げる。シェイクスピアは作品の中で当時のイギリスにおいて家父長制というゆるぎない基盤が存在することを描く一方、そのような時代でも自分の考えを口に出し、それに基づいた行動をすることができる女性たちを描いている。彼の作品に登場する女性たちはとても現代的であるといえる。そんな女性たちの言動を通し、女性の自立について考える。

**【学習目標】**

講義ではRomeo and Juliet, Twelfth Night, The Merchant of Venice, Much Ado About Nothing, Macbethを取り上げる予定だが、受講者の反応を見て調整する。作品の名場面を原文で読み、映画を観て作品全体を鑑賞することで、その作品に登場している女性の生き方について考えたい。

**【講義計画】**

- 第1回 Guidance
- 第2回 シェイクスピアの時代のイギリス
- 第3回 シェイクスピアの時代のイギリス
- 第4回 シェイクスピアについて
- 第5回 シェイクスピアについて
- 第6回 シェイクスピアについて
- 第7回 Romeo and Juliet
- 第8回 Romeo and Juliet
- 第9回 Romeo and Juliet
- 第10回 Romeo and Juliet
- 第11回 Twelfth Night
- 第12回 Twelfth Night
- 第13回 Twelfth Night
- 第14回 Twelfth Night
- 第15回 Twelfth Night
- 第16回 The Merchant of Venice
- 第17回 The Merchant of Venice
- 第18回 The Merchant of Venice
- 第19回 The Merchant of Venice
- 第20回 The Merchant of Venice
- 第21回 Much Ado About Nothing
- 第22回 Much Ado About Nothing
- 第23回 Much Ado About Nothing
- 第24回 Much Ado About Nothing
- 第25回 Macbeth
- 第26回 Macbeth
- 第27回 Macbeth
- 第28回 Macbeth
- 第29回 Macbeth
- 第30回 まとめ

**【成績評価の方法】**

教室での発表状況20%、小レポート30%、学期末レポート50パーセント

**【教科書】**

プリントを配布する。

**【参考文献】**

授業で指示する  
辞書は必携。

**【備考】**

<02~07生>は読替一覧参照の事。



科目名	クラス	講義区分
現代技術論 <秋集>		
辻	洋一郎	4単位

**【講義概要】**

最近では製造業だけでなく、流通、サービス、物流や金融の現場でも「技術」を知らないと仕事になりません。しかし、小難しい数式や理屈は理系＝工学部出身者に任せておけばよいのです。具体的な中身ではなく、技術の『考え方』さえ知っておけば、将来、営業や経理・企画で活躍する皆さんが、技術者に翻弄されることなく、彼らをコントロールできるのです。

この講義では、身近な新製品や新技術を例にあげて『技術の構図』、『技術的なものの見方』や『技術的な考え方』をマーケティングとからめて理解することに力点を置きます。考え方を習得すれば、文科系でも理科系に負けない企画やビジネスチャンスをもつことも可能です。

**【学習目標】**

この講義では、現代技術に対する恐怖心をなくし、技術に親しむことを第一にしています。以下の授業計画は順不同です。受講生の水準に応じて、必要と思われる内容を適宜追加することもあります。

**【講義計画】**

- 第1回 経済を支える技術革新
- 第2回 技術の歴史と進化－その1
- 第3回 技術の歴史と進化－その2
- 第4回 技術の歴史と進化－その3
- 第5回 身近な製品にみる技術－その1
- 第6回 身近な製品にみる技術－その2
- 第7回 身近な製品にみる技術－その3
- 第8回 身近な製品にみる技術－その4
- 第9回 身近な製品にみる技術－その5
- 第10回 身近な製品にみる技術－その6
- 第11回 身近な製品にみる技術－その7
- 第12回 身近な製品にみる技術－その8
- 第13回 技術の歴史と進化－その1
- 第14回 技術の歴史と進化－その2
- 第15回 技術の歴史と進化－その3
- 第16回 特許と技術－その1
- 第17回 特許と技術－その2
- 第18回 特許と技術－その3
- 第19回 技術とマーケティング－その1
- 第20回 技術とマーケティング－その2
- 第21回 技術とマーケティング－その3
- 第22回 技術とマーケティング－その4
- 第23回 経済を支える技術革新
- 第24回 技術戦略と経済
- 第25回 技術の進歩／技能の進化
- 第26回 技術を取り巻く要因
- 第27回 技術の限界と社会
- 第28回 まとめ

**【成績評価の方法】**

試験 100% レポート 0% 出席 0%

**【教科書】**

講義中に適宜指示します。

**【参考文献】**

講義中に適宜指示します。

科目名	クラス	講義区分
現代思想 <春集>		
岩	津 洋 二	4単位

**【講義概要】**

私たちは人生の途上でさまざまな恐怖に遭遇する。爆弾テロを怖がり、地震を怖がり、お化けを怖がり、友達から嫌われるのを怖がる。じつに多くの恐怖が私たちの生活につきまとい、恐怖ゆえに、私たちはしたいことを思いとどまり、したくないことをあえておこなっている。しかし、私たちの行動の決定にかくも深くかかわっている恐怖がどのようなものであるかについて正しく認識している人は多くない。

この講義は、哲学のみならず心理学・生理学・民族学・民俗学などの多様な視点から恐怖を解剖し、その作業をとおして、恐怖にとらわれている自分を見つめなおし、恐怖から自分を解放し、より自由になるための手がかりをさぐるという実践的な課題を追求する。

**【学習目標】**

自分の日常生活を哲学的な反省の対象としてみることをとおして、世界と自分自身を再発見するきっかけとしたい。

**【講義計画】**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 恐怖の諸相
- 第3回 近代人の恐怖理解
- 第4回 恐怖の心理学
- 第5回 恐怖の生理学
- 第6回 恐怖の精神分析
- 第7回 過剰な恐怖
- 第8回 対人恐怖
- 第9回 対人恐怖と日本文化
- 第10回 規範としての恐怖
- 第11回 現代日本の恐怖
- 第12回 和合としての恐怖
- 第13回 伝統的恐怖対象Ⅰ
- 第14回 伝統的恐怖対象Ⅱ
- 第15回 近代人の恐怖Ⅰ
- 第16回 近代人の恐怖Ⅱ
- 第17回 テロリズム論批判
- 第18回 恐怖の利用Ⅰ
- 第19回 恐怖の利用Ⅱ
- 第20回 集合的恐怖Ⅰ
- 第21回 集合的恐怖Ⅱ
- 第22回 現代アメリカの恐怖Ⅰ
- 第23回 現代アメリカの恐怖Ⅱ
- 第24回 恐怖への接近
- 第25回 恐怖愛好の構造
- 第26回 恐怖への接近の仕方
- 第27回 恐怖とのつき合い方
- 第28回 総括

**【成績評価の方法】**

試験 70% レポート 30%

ただし、試験は期末試験だけではなく、授業中に事前の予告なく随時おこなうことがあるので、出席していないと試験を受けることができない。

**【参考文献】**

授業中に適宜指示する。

科目名 クラス 講義区分	
現代資本主義論 <秋集>	
鈴木 健	4単位

**【講義概要】**

現代資本主義あるいは現段階の資本主義に著しく特徴的なのは、それがグローバル資本主義として現れていることである。資本（独占資本）の本性は世界主義であるから、グローバル資本主義はその発現として必然なのだが、資本主義はつねにグローバル資本主義と特徴づけられる有り方をしてきたわけではない。現代資本主義がグローバル資本主義と特徴づけられるのは、資本主義の本性である世界主義を発現させる諸条件が世界の諸国家の合意を前提に形成され、文字通りグローバルな資本運動を一般化させる条件が画段階的に形成されつつあるからに他ならない。

本講義では、グローバル資本主義の諸側面を取り上げ、資本主義がグローバル資本主義として発現するに至った所以について、可能な限り歴史的・理論的に検討を加え、グローバル資本主義の全体としての把握を試みることにする。

**【学習目標】**

本講義の獲得目標は次の三つである。第一は、資本主義もまた歴史的に制限された経済システムであることを受講生の認識として確立すること、第二は、現代資本主義が独占段階の資本主義であり、しかも、第二次世界大戦後の新しい条件によって規定される独占資本主義であることを明瞭にすること、そして第三は、現代資本主義の一大特徴である「金融化」が如何なる事態を惹き起こすのかということについて、受講生の明瞭な理解を確立することである。

総じて、受講生の現代資本主義理解を一步前進させることである。

**【講義計画】**

- 第1回 ガイダンスー本講義の課題と講義計画  
現代資本主義論序論ー現代資本主義の提起する諸問題、現代資本主義論の課題
- 第2回 独占資本主義論ー自由競争段階から独占段階へ①
- 第3回 独占資本主義論ー自由競争段階から独占段階へ②
- 第4回 独占資本主義論ー独占資本論①
- 第5回 独占資本主義論ー独占資本論②
- 第6回 独占資本主義論ー国家独占資本主義論①
- 第7回 独占資本主義論ー国家独占資本主義論②
- 第8回 独占資本主義論ー国家独占資本主義論③
- 第9回 独占資本主義論ー独占資本支配と帝国主義戦争①
- 第10回 独占資本主義論ー独占資本支配と帝国主義戦争②
- 第11回 第二次大戦後の資本主義世界経済ー国際的国家独占資本主義の展開①
- 第12回 第二次大戦後の資本主義世界経済ー国際的国家独占資本主義の展開②
- 第13回 第二次大戦後の資本主義世界経済ー国際的国家独占資本主義の展開③
- 第14回 第二次大戦後の資本主義世界経済ー国際的国家独占資本主義の展開④
- 第15回 第二次大戦後の資本主義世界経済ー国際的国家独占資本主義の展開⑤
- 第16回 第二次大戦後の資本主義世界経済ー国際的国家独占資本主義の展開⑥
- 第17回 第二次大戦後の資本主義世界経済ー国際的国家独占資本主義の展開⑦
- 第18回 第二次大戦後の資本主義世界経済ー国際的国家独占資本主義の展開⑧
- 第19回 第二次大戦後の資本主義世界経済ー国際的国家独占資本主義の展開⑨
- 第20回 第二次大戦後の資本主義世界経済ー国際的国家独占資本主義の展開⑩
- 第21回 現代資本主義のグローバル化ー新自由主義的対外膨張の進展と限界①
- 第22回 現代資本主義のグローバル化ー新自由主義的対外膨張の進展と限界②
- 第23回 現代資本主義のグローバル化ー新自由主義的対外膨張の進展と限界③
- 第24回 現代資本主義のグローバル化ー新自由主義的対外膨張の進展と限界④
- 第25回 現代資本主義のグローバル化ー新自由主義的対外膨張の進展と限界⑤
- 第26回 現代資本主義のグローバル化ー新自由主義的対外膨張の進展と限界⑥

- 第27回 現代資本主義のグローバル化ー新自由主義的対外膨張の進展と限界⑦
- 第28回 現代資本主義のグローバル化ー新自由主義的対外膨張の進展と限界⑧

**【成績評価の方法】**

講義時間中に10回のテストを行い、6回以上の受験、6割以上の得点を合格とする。受験回数は出席回数でもあるから、評価のうえで大きなウェイトを占めることになる。テキストは使わず、レジュメにもとづく講義が中心なので、出席する意図のない者には単位取得は困難である。

**【参考文献】**

講義中、そのつど関連する図書を推薦する。

科目名	クラス	講義区分
現代社会論 <秋集>		
篠原千佳	4単位	

**【講義概要】**

現代社会論の講義では、社会学の基礎知識を身に付け、さまざまな社会問題について日本社会を中心に学ぶ。トピックとしては、孤立化社会、学校・教育と就職問題、非行と犯罪、地域社会の崩壊と再生、グローバル化と社会の多様化、社会階層と格差、メディアと大衆文化、人権問題と雇用均等、福祉国家、安心社会から信頼社会への変化、幸福感と関連社会意識、グローバル化社会と日本の役割など。

**【学習目標】**

社会学の理論・研究方法など基礎知識を習得しながら、最近のグローバル化の中で起こっている様々な社会問題を社会的に理解・分析する基礎的能力を育てることを目標とする。この学期の最終目標は、多様化する現代社会で、社会問題をさまざまな視点から理解・分析し、多様な解決方法を模索し提示できるようになることである。

**【講義計画】**

- 第1回 講義紹介
- 第2回 社会学って何？グローバル化社会って何？
- 第3回 現代社会をキャッチするー社会学理論と調査方法
- 第4回 孤人化社会と親密性の罠1ーヒキコモリとか人間関係とか…
- 第5回 孤人化社会と親密性の罠2ーケータイに着信がないと孤独
- 第6回 学校から職業へ1ー未来予想図は見える？
- 第7回 学校から職業へ2ー学歴社会のホント
- 第8回 非行文化喪失と少年犯罪1ー野ブタ。をプロデュースの世界
- 第9回 非行文化喪失と少年犯罪2ーピアアとソーシャル・ネットワークの力
- 第10回 地域社会の崩壊と再生1ーシャッター商店街、増えるホームレス
- 第11回 地域社会の崩壊と再生2ー外国人も一緒、多様化社会、ボランティア社会
- 第12回 格差と不平等1ー上流・下流、勝ち組・負け組、二極化社会
- 第13回 格差と不平等2ー少子高齢化社会と階層社会
- 第14回 これまでのまとめと復習
- 第15回 社会変動と大衆文化1ー何で読む？本、PC、それともケータイ？
- 第16回 社会変動と大衆文化2ー日本のメディアとポップ・カルチャー
- 第17回 家族とジェンダー1ー世界と日本の家族と雇用政策と性別役割
- 第18回 家族とジェンダー2ーGLTB
- 第19回 福祉国家1ーネオリベリズムと福祉国家の社会保障制度
- 第20回 福祉国家2ー大丈夫？日本の出産、保険、年金、介護
- 第21回 安心社会から信頼社会へ1ーリスク社会、安心社会、信頼社会
- 第22回 安心社会から信頼社会へ2ー市民社会とNGO・NPO
- 第23回 グローバル化と社会意識の変化1ー世界がもし100人の村だったら
- 第24回 グローバル化と社会意識の変化2ーグローバル化と幸福感の変化
- 第25回 グローバル社会と日本の役割1ー日本とUN国際機関の役割
- 第26回 グローバル社会と日本の役割2ーグローバル化社会の制度と文化
- 第27回 まとめ
- 第28回 期末試験

**【成績評価の方法】**

基本的な理解を試験と自由選択テーマの論述で確認するほかに、授業への出席・参加・貢献の総合的な判断で評価する。

**【教科書】**

友枝敏雄・山田真茂留(編) Do! ソシオロジー 現代日本を社会学で診る 有斐閣アルマ

科目名	クラス	講義区分
現代中国社会 <春>		
坂井田 夕起子	2単位	

**【講義概要】**

中華人民共和国は2009年に建国60周年を迎える。本講義では、この60年間の社会・政治の移り変わりについて映像資料(映画やドキュメンタリーフィルム)を用いながら講義を行う。映像資料の内容については、受講生の基礎知識や興味に合わせて若干の変更も行う。

**【学習目標】**

中華人民共和国の建国、「大躍進」、文化大革命、そして改革開放の現在まで、激しく移り変わる中国社会について、それぞれの時期の歴史的背景と国際関係を把握することを目指す。

**【講義計画】**

- 第1回 ガイダンス。受講生の中国近現代史、現代社会に対する基礎知識を確認し、今後の授業内容について説明を行う。
- 第2回 改革開放政策についてのドキュメンタリーによる授業。
- 第3回 現代中国メディアについてのドキュメンタリーによる授業。
- 第4回 現代中国の教育問題についてのドキュメンタリーによる授業。
- 第5回 映画『あの子を探して』を用いた授業。
- 第6回 現代中国の土地問題についてのドキュメンタリーによる授業。
- 第7回 ドキュメンタリー映画『失われた龍の系譜』の前半を用いた授業。
- 第8回 ドキュメンタリー映画『失われた龍の系譜』の後半を用いた授業。
- 第9回 映画『生きる』の前半を用いた授業。
- 第10回 映画『生きる』の後半を用いた授業。
- 第11回 映画『初恋がきた道』を用いた授業。
- 第12回 映画『長江哀歌』を用いた授業。
- 第13回 映画『長江哀歌』を用いた授業。
- 第14回 映画『山の郵便配達』を用いた授業。

**【成績評価の方法】**

レポート 100%  
毎回用いる映像資料について、必ずレポートを作成してもらいます。成績(および出席)はレポートによって評価します。

**【参考文献】**

以下全て映像資料  
『あの子を探して』『生きる』『初恋のきた道』(全てチャン・イーモウ[張芸謀]監督)。  
ドキュメンタリー映画『失われた龍の系譜』(メイベル・チャン監督)。  
『山の郵便配達』(フォ・ジェンチイ監督)。  
『長江哀歌』(ジャ・ジャンクー監督)。  
ドキュメンタリー映画『水没の前に』(紀伊国屋書店)。  
『芙蓉鎮』(謝晋監督)。  
『子供たちの王様』(陳凱歌監督)。  
『天安門』(カーマ・ヒントン監督)

科目名 クラス 講義区分	
現代中国政治 <春>	
副 島 昭 一	2 単位

**【講義概要】**

この授業では20～21世紀の中国の政治と社会の変容と現在の問題を取りあげる。現在の政権政党である中国共産党の成立から、現在までを通観して見ることで、現代中国の抱える諸問題や社会主義的市場経済の世界史的な意味について考える。

**【学習目標】**

中国の政治の仕組みは日本やヨーロッパとどこがどのように違うのか、なぜそのような違いが生まれたのか、などの素朴な疑問を歴史を少しさかのぼって明らかにし、日本人として中国を見る基本的な視点を持てるようにする。

**【講義計画】**

- 第1回 世界の政治体制の諸類型と中国の特徴
- 第2回 現代中国政治体制の創出過程
- 第3回 国家と政党
- 第4回 抗日戦争における民族的統一と近代国民国家形成への動き
- 第5回 中国共産党の指導の確立と中華人民共和国の成立
- 第6回 新民主主義から社会主義へ 1
- 第7回 新民主主義から社会主義へ 2
- 第8回 「大躍進」と人民公社 1
- 第9回 「大躍進」と人民公社 2
- 第10回 調整期から文化大革命へ
- 第11回 改革開放政策への転換、市場経済と社会主義
- 第12回 市場経済の進展と中国政治
- 第13回 一国兩制と香港・台湾
- 第14回 現代化政策と政治改革
- 第15回 期末テスト

**【成績評価の方法】**

試験 60% レポート 20% 出席 20%  
 受講生数によっては毎回の出席確認はしないので、上記の数字は変動することもある。授業の最初にコメント用紙を配布して、最後に回収する。したがって遅刻者はコメント用紙を提出できない場合もある。  
 また名簿をもとに授業中に質問をし、その答え方を評価することもある。

**【教科書】**

池田・安井・副島・西村編 図説中国近現代史 法律文化社

**【参考文献】**

天児慧『中国・アジア・日本』（ちくま新書、700円＋税）  
 上村幸治『中国の今がわかる本』（岩波ジュニア新書、780円＋税）

科目名 クラス 講義区分	
言語と心理 <秋集>	
Kevin R. Gregg	4 単位

**【講義概要】**

昔から「言葉はこころの鏡である」と言われているが、本授業ではこの諺を考察し、言語とこころとの関係を調べる。今日、このテーマは激しい議論的になっているが、特に

- ・ 1 我々の、言語にかんする知識はどのぐらい生得的なのか
- ・ 2 その知識は他の知識とは本質的に異なるのか
- ・ 3 言語によって文化や考え方が違うのか
- ・ 4 人間言語は動物の伝達体系とどう異なるのか

という4点に絞り、それぞれの問題点にかんする最近の研究を批判的に分析する。

**【講義計画】**

- 第1回 言語とこころ：概要
- 第2回 言語の知識（第2回～第9回）
- 第3回 言語の知識（第2回～第9回）
- 第4回 言語の知識（第2回～第9回）
- 第5回 言語の知識（第2回～第9回）
- 第6回 言語の知識（第2回～第9回）
- 第7回 言語の知識（第2回～第9回）
- 第8回 言語の知識（第2回～第9回）
- 第9回 言語の知識（第2回～第9回）
- 第10回 言語のモジュール性（第10回～第17回）
- 第11回 言語のモジュール性（第10回～第17回）
- 第12回 言語のモジュール性（第10回～第17回）
- 第13回 言語のモジュール性（第10回～第17回）
- 第14回 言語のモジュール性（第10回～第17回）
- 第15回 言語のモジュール性（第10回～第17回）
- 第16回 言語のモジュール性（第10回～第17回）
- 第17回 言語のモジュール性（第10回～第17回）
- 第18回 言語と文化（第18回～第24回）
- 第19回 言語と文化（第18回～第24回）
- 第20回 言語と文化（第18回～第24回）
- 第21回 言語と文化（第18回～第24回）
- 第22回 言語と文化（第18回～第24回）
- 第23回 言語と文化（第18回～第24回）
- 第24回 言語と文化（第18回～第24回）
- 第25回 人間言語と動物の「言語」（第25回～第29回）
- 第26回 人間言語と動物の「言語」（第25回～第29回）
- 第27回 人間言語と動物の「言語」（第25回～第29回）
- 第28回 人間言語と動物の「言語」（第25回～第29回）
- 第29回 人間言語と動物の「言語」（第25回～第29回）
- 第30回 まとめ（第30回）

**【成績評価の方法】**

試験 100%

**【教科書】**

なし

**【備考】**

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科目名	クラス	講義区分
憲法	01 <通期>	
憲法	02 <通期>	
森 口 佳 樹	4 単位	

**【講義概要】**

上記到達目標を達成するために、本授業は統治機構論と人権論とに大別してすすめていく。その際、日本国憲法に関して条文のほか判例や学説を紹介し、また諸外国の憲法システムなども素材にしていく。

**【学習目標】**

本授業の到達目標は、近代立憲主義および、それに基づく日本国憲法の体系を理解することにある。すなわち、憲法が「最高法規」であり「人権の法」であることの理解を理論的に深めていくことにある。抽象的な理論だけでなく、できるかぎり身近な素材や事例から、これら憲法の基礎を習得していく。

**【講義計画】**

- 第1回 近代憲法主義の意義
- 第2回 日本国憲法の成立と特色
- 第3回 憲法の分類
- 第4回 国民主権
- 第5回 選挙制度の概要
- 第6回 選挙制度の課題
- 第7回 国民主権と天皇制
- 第8回 国会の地位
- 第9回 国会の権能
- 第10回 国会の活動
- 第11回 議院内閣制
- 第12回 衆議院の解散
- 第13回 司法制度の原則
- 第14回 違憲審査制
- 第15回 人権思想の系譜
- 第16回 新しい人権
- 第17回 人権の享有主体
- 第18回 思想・信条の自由
- 第19回 平等原則の審査基準
- 第20回 平等原則の裁判例
- 第21回 自己決定権
- 第22回 信教の自由の意義
- 第23回 政教分離原則
- 第24回 表現の自由の意義
- 第25回 表現の自由の制約基準
- 第26回 社会権
- 第27回 平和主義
- 第28回 戦後改憲論の系譜
- 第29回 まとめ
- 第30回 試験

**【成績評価の方法】**

試験 80% 出席 20%  
定期試験の成績に加えて、講義終了時の小テストを出席調査を兼ねて実施し、補助的に成績評価に利用する

**【教科書】**

土居・網中編著 現代憲法概論 嵯峨野書院

**【参考文献】**

別冊ジュリスト「憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ」（第5版）（有斐閣）

**【備考】**

<02～07生>は共通教養科目として履修可  
<08～09生>は共通自由科目として履修可

科目名	クラス	講義区分
憲法・基本的人権 <秋集>		
前 田 徹 生	4 単位	

**【講義概要】**

憲法は、大別すると「基本的人権」と「統治機構」の2分野で構成されている。本講義では、とりわけ「基本的人権」を中心に講義をおこなう。講義は、各種試験の受講者にも有益であるように解釈論を核とし、また、理解を早めるために個別分野ごとに具体的な事件・判例を紹介し、可能な限り憲法訴訟論的アプローチを加味しながら憲法学説の体系的な解説を試みる。さらに、今日もはや憲法理解に不可欠となっている欧米との比較憲法の視点を織り交ぜながらできる限り多角的な視野から考察をしていく。

**【学習目標】**

憲法・基本的人権の分野での基本概念の修得および憲法の通説的理解を目標とする。

**【講義計画】**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 日本国憲法成立史（1）
- 第3回 日本国憲法成立史（1）
- 第4回 基本的人権の享有主体
- 第5回 基本的人権の私人間効力
- 第6回 基本的人権と公共の福祉
- 第7回 特別な法律関係における人権
- 第8回 法の下での平等
- 第9回 個人の尊重と幸福追求権
- 第10回 プライバシーの権利
- 第11回 自己決定権
- 第12回 思想・良心の自由
- 第13回 信教の自由
- 第14回 政教分離の原則
- 第15回 学問の自由
- 第16回 表現の自由（1）
- 第17回 表現の自由（2）
- 第18回 集会・結社の自由
- 第19回 被疑者・被告人の権利
- 第20回 裁判員制度
- 第21回 職業選択の自由（1）
- 第22回 職業選択の自由（2）
- 第23回 財産権の保障
- 第24回 生存権
- 第25回 教育を受ける権利
- 第26回 労働基本権
- 第27回 国務請求権
- 第28回 参政権

**【成績評価の方法】**

試験 80% 出席 20%  
2/3以上の出席を単位認定の最低条件とする。出席点および定期試験を総合して判断する。

**【教科書】**

芦部信喜著、高橋和之補訂 憲法第4版 岩波書店  
高橋和之・長谷部恭男・石川健治編 憲法判例百選Ⅰ〔第5版〕有斐閣  
高橋和之・長谷部恭男・石川健治編 憲法判例百選Ⅱ〔第5版〕有斐閣

**【参考文献】**

佐藤功『日本国憲法概説』（全訂第五版）学陽書房  
野中・中村・高橋・高見『憲法Ⅰ』（第4版）有斐閣  
佐藤幸治『憲法』（第三版）青林書院  
粕谷友介・向井久了・矢島基美編『青林法学双書 憲法』（第二版）青林書院

**【備考】**

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科目名	クラス	講義区分
憲法・統治機構 <通期>		
有澤知子	4単位	

**【講義概要】**

憲法・統治機構では、日本国憲法の基本原理や統治機構について講義をします。まず、基本原理について説明します。次に、日本国憲法は大日本帝国憲法を改正する形で成立しています。大日本帝国憲法と日本国憲法を比較検討し、現行憲法の規定の存在意義を明らかにしようと思います。又、現行憲法は民主主義を基本原理とし、基本的人権を保障するために権力分立制を採っています。三権を担う、国会、内閣、裁判所の組織や権能について条文を見ながら理解して欲しいと思います。そのあとで、財政、地方自治、最高規範性、憲法改正の焦点となっている9条について検討します。

**【学習目標】**

主として、統治機構では、憲法の条文の解釈をしていきます。場合によっては、国会法、内閣法、裁判所法などもみてもらいます。なぜそのような仕組みになっているのか、考えながら条文解釈して下さい。六法と教科書は必ず持参して下さい。判例や表も配ります。憲法規定を個別具体的に検討することによって、国の仕組みを理解するとともに、法的なものの見方や考え方を習得して欲しいと思います。

**【講義計画】**

- 第1回 憲法の基本原理
- 第2回 憲法の改正と限界
- 第3回 大日本帝国憲法と日本国憲法①
- 第4回 大日本帝国憲法と日本国憲法②
- 第5回 天皇の地位と内閣の助言と承認
- 第6回 天皇の国事行為①
- 第7回 天皇の国事行為②
- 第8回 国会
- 第9回 二院制一衆議院の優越
- 第10回 国会の権能
- 第11回 議院の権能
- 第12回 国会議員の特権
- 第13回 財政国会中心主義①
- 第14回 財政国会中心主義②
- 第15回 \*前期期末試験
- 第16回 議院内閣制
- 第17回 内閣の権能
- 第18回 内閣総理大臣の権能
- 第19回 裁判所
- 第20回 司法権の限界①
- 第21回 司法権の限界②
- 第22回 司法権の独立
- 第23回 違憲審査権
- 第24回 地方自治
- 第25回 条例と法
- 第26回 最高法規
- 第27回 憲法と条約
- 第28回 平和主義①
- 第29回 平和主義②
- 第30回 \*後期期末試験

**【成績評価の方法】**

試験 100%  
前期試験 50% 後期試験 50%

**【教科書】**

古野豊秋編 新スタンダード憲法（改定版）尚学社

**【参考文献】**

芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法（第4版）』岩波書店  
佐藤 功 『日本国憲法概説（全訂第5版）』学陽書房  
野中俊彦・中村睦男・高橋和之・高見勝利 『憲法Ⅱ』有斐閣

**【備考】**

<02～07生>は読替一覧参照の事。

科目名	クラス	講義区分
憲法入門 <春>		
前田徹生	2単位	

**【講義概要】**

憲法入門は、憲法学の学習を容易にするため、「具体から抽象へ」、「素材（基本事例）の習得から理論的整理へ」を基本に、その前段階の憲法学習の基本となる素材（基本事例）の習得に重点が置かれる。憲法の基礎概念や各条文に関わる代表的な判例を取り上げ、事例から発想する憲法学を展開する。

**【学習目標】**

憲法の解釈学を中心とした学習での抽象的な概念整理に必要な素材（基本事例）の獲得を目標にする。具体的には、憲法学での興味深い判例や基本概念の理解に不可欠な具体的事例の紹介と解説を中心とする。「生きた法」の現実を具体的に学習し、法律学の学問としての面白さを学び、法学学習への意欲を高めることをねらいとしている

**【講義計画】**

- 第1回 憲法入門ガイダンス
- 第2回 「12. 三菱樹脂事件」と基本的人権の私人間効力（「内番号は憲法判例百選第5版事件番号、以下同じ」  
「26. 校則によるバイク制限」
- 第3回 「30. 尊属殺重罰規定判決」と「法の下での平等」
- 第4回 「46. 宗教上の理由に基づく「剣道」の不受講」と信教の自由
- 第5回 「47. 津地鎮祭訴訟」と政教分離の原則
- 第6回 「57. チャタレイ事件」と表現の自由
- 第7回 「74. 北方ジャーナル事件」と事前抑制の禁止
- 第8回 「101. 小売市場事件」・「102. 薬事法違憲判決」と経済的自由
- 第9回 「142. 朝日訴訟」「143. 堀木訴訟」と生存権
- 第10回 「151. 全通東京中郵事件」「153. 全農林警職法事件」と労働基本権
- 第11回 「161 議員定数不均衡と選挙の平等」
- 第12回 「180. 恵庭事件」「181～182. 長沼事件」と第9条
- 第13回 「207. 警察予備隊違憲訴訟」と違憲審査制
- 第14回 「203. 板まんだら事件」と司法権の意味と範囲
- 第15回 試験

**【成績評価の方法】**

出席数と定期試験の結果を総合して成績評価の判断をおこなう。

**【教科書】**

高橋和之・長谷部恭男・石川健治編 別冊ジュリスト『憲法判例百選Ⅰ [第5版]』有斐閣  
高橋和之・長谷部恭男・石川健治編 別冊ジュリスト『憲法判例百選Ⅱ [第5版]』有斐閣

**【参考文献】**

芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法〔第4版〕』岩波書店

**【備考】**

〔09 J 生〕のみ履修可

科目名	クラス	講義区分
語彙・意味論 <春>		
藤原	健	2単位

**【講義概要】**

ことばによる表現が単語を一定の文法規則に従って文の形にまとめ上げることであるとすれば、表現にはいくつかの単語が使われていると考えるのが普通であろう。私たちが使っている日本語も、数多くの単語を意味伝達の手段として、それを文や文章、談話の形にまとめ上げているのである。「語彙」とは、このような文章や談話を形成するための要素として用いられる単語の集まりのことであり、言語にとって文法と同等に重要な要素である。

日本語の語彙を形式の面からとらえ、音声構造や意味の範囲、広がりなどについて観察する。

**【学習目標】**

上記の講義概要に沿って、おおよそ下記の授業計画をもとに日本語の語彙・単語の意味・形式の特徴を考えていく。

実際の授業では、日常的な平易な用例をもとに、日本語の語彙の意味や構成を分類し、普段使っている日本語の語彙について、いろいろな面から考えてみたい。

**【講義計画】**

- 第1回 1. 単語と語彙
  - 1) 単語とは
- 第2回 2) 語彙とは
- 第3回 3) 語形
- 第4回 2. 語の数
  - 1) 基礎語彙と基本語彙
- 第5回 2) 使用語彙と理解語彙
- 第6回 3) 語数とカバー率
- 第7回 3. 語の種類
- 第8回 4. 語構成と造語法
  - 1) 語の構成成分
- 第9回 2) 造語法
- 第10回 3) 造語に伴う音声変化(1)
- 第11回 3) 造語に伴う音声変化(2)
- 第12回 5. 語の意味の範囲と変化
- 第13回 6. 意味に関する問題点
- 第14回 7. 語彙教育のポイント
- 第15回 テスト

**【成績評価の方法】**

試験 100%  
定期試験(半期科目であるので、春学期1回)により評価する。  
詳しくは、授業初回に説明する。

**【教科書】**

森田良行・村木新次郎・相沢正夫(編)『ケーススタディ・日本語の語彙』おうふう(桜風社)

**【参考文献】**

浅野百合子(著)『教師用日本語教育ハンドブック(5)語彙』(国際交流基金/凡人社)

科目名	クラス	講義区分
公共経済論 <秋集>		
竹歳	一紀	4単位

**【講義概要】**

公共経済学の基礎について講義する。公共経済学の扱う範囲は広いが、ひとことと言えば、市場経済において公共部門の介入が必要となる諸問題を経済理論により分析することである。特にこの講義では、(1)公共財と財政、(2)外部性と環境問題、(3)所得分配と社会保障、といったテーマをとりあげる予定である。

公共経済学を理解するためには、主としてミクロ経済学の知識が必要となるが、この講義ではごく基本的な範囲にとどめる。その上で、理論だけでなく上記のテーマに関する実態・政策面についての解説も行う。

**【学習目標】**

- ①市場経済において公共部門(政府)の介入が必要となるのはどのような問題に対してか
  - ②適切な介入(政策)とはどういうものか
  - ③上記①②についての実態はどういうものか
- といった点について理解を深めることが目標である。

**【講義計画】**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 公共経済学の対象
- 第3回 厚生経済学の基礎(1)
- 第4回 厚生経済学の基礎(2)
- 第5回 厚生経済学の基礎(3)
- 第6回 厚生経済学の基礎(まとめ)
- 第7回 公共財の理論(1)
- 第8回 公共財の理論(2)
- 第9回 公共投資と日本の財政(1)
- 第10回 公共投資と日本の財政(2)
- 第11回 公共投資と日本の財政(3)
- 第12回 公共投資と日本の財政(4)
- 第13回 公共財と公共投資(まとめ)
- 第14回 外部性の理論(1)
- 第15回 外部性の理論(2)
- 第16回 外部性の理論(3)
- 第17回 環境問題と環境政策(1)
- 第18回 環境問題と環境政策(2)
- 第19回 環境問題と環境政策(3)
- 第20回 環境問題と環境政策(4)
- 第21回 環境問題と環境政策(5)
- 第22回 外部性と環境問題(まとめ)
- 第23回 所得分配の理論(1)
- 第24回 所得分配の理論(2)
- 第25回 所得分配の実態と社会保障制度(1)
- 第26回 所得分配の実態と社会保障制度(2)
- 第27回 所得分配の実態と社会保障制度(3)
- 第28回 所得分配と社会保障(まとめ)

**【成績評価の方法】**

試験 100%  
学期末試験の成績による。

**【教科書】**

特に指定しない。

**【参考文献】**

奥野信宏『公共経済学(第3版)』岩波書店  
麻生良文『公共経済学』有斐閣  
植田和弘『環境経済学』岩波書店  
日引聡・有村俊秀『入門 環境経済学』中公新書  
西村和雄『現代経済学入門 ミクロ経済学』岩波書店  
荒井一博『ファンダメンタル ミクロ経済学(第2版)』中央経済社

科目名 クラス 講義区分		
工業簿記 <秋>		
河野 勉		2単位

**【講義概要】**

本講義では、初級の商業簿記の履修を終えた学生を対象に、製造業の簿記（初歩の原価計算を含む）を講義する。

**【学習目標】**

簿記の学習には、計算方法や簿記的な考え方に慣れることが必要のため、毎時間、練習を解く学習を中心につとめて実践的に授業を進めたい。

原価計算論学習のための基礎知識や公認会計士等の資格試験受験の出発点として必要な簿記能力の習得に役立つと思うので、受け身にならず積極的に授業に参加してもらいたい。

**【講義計画】**

- 第1回 工業簿記の基礎、原価、原価計算
- 第2回 工業簿記の構造
- 第3回 材料費の計算
- 第4回 労務費の計算・経費の計算
- 第5回 個別原価計算・製造間接費
- 第6回 部門費計算
- 第7回 単純総合原価計算
- 第8回 級別総合原価計算・組別総合原価計算
- 第9回 工程別総合原価計算
- 第10回 製品の受払・営業費計算・財務諸表（製造業）の作成
- 第11回 工場会計の独立
- 第12回 標準原価計算
- 第13回 直接原価計算
- 第14回 試験

**【成績評価の方法】**

定期考査の成績に、適宜ホームワークを課しその提出物等を加味して、総合的に評価する。

**【教科書】**

小林哲夫・伊藤 博（共著）「最新工業簿記増補改訂版」（実教出版）  
 岡本 清・廣本敏朗（編著）「新検定簿記ワークブック 2級工業簿記」（中央経済社）

科目名 クラス 講義区分		
考古学概論 <秋集>		
井上 敏		4単位

**【講義概要】**

本年度初めて開講する講義である。それゆえに授業計画は現段階のもので、確定したものは講義の1回目で配布する。本講義では考古学の基本的な方法論を学ぶとともにその歴史を解説する。また各時代や外国の考古学の状況を概観するとともに、他の学問領域による考古学への応用や現代の埋蔵文化財の保護の問題など、幅広い考古学の諸領域について講義を行う。また外国の考古学では英語文献なども読む場合があるので、その点は了解しておいていただきたい。

**【学習目標】**

考古学の基本的な考え方を理解するとともに本学の周辺にある豊かな歴史的環境の中には色々な情報が含まれていることを理解する。

**【講義計画】**

- 第1回 考古学とは何か
- 第2回 考古学史(1)
- 第3回 考古学史(2)
- 第4回 考古学史(3)
- 第5回 考古学の方法論(1)
- 第6回 考古学の方法論(2)
- 第7回 考古学の方法論(3)
- 第8回 旧石器・縄文時代の考古学(1)
- 第9回 旧石器・縄文時代の考古学(2)
- 第10回 旧石器・縄文時代の考古学(3)
- 第11回 弥生時代の考古学(1)
- 第12回 弥生時代の考古学(2)
- 第13回 弥生時代の考古学(3)
- 第14回 古墳時代の考古学(1)
- 第15回 古墳時代の考古学(2)
- 第16回 古墳時代の考古学(3)
- 第17回 歴史考古学(1)
- 第18回 歴史考古学(2)
- 第19回 歴史考古学(3)
- 第20回 外国における考古学(1)
- 第21回 外国における考古学(2)
- 第22回 外国における考古学(3)
- 第23回 形質人類学(1)
- 第24回 形質人類学(2)
- 第25回 形質人類学(3)
- 第26回 考古学と現代社会(1)－埋蔵文化財保護の現実－
- 第27回 考古学と現代社会(2)－埋蔵文化財とジャーナリズム－
- 第28回 考古学と現代社会(3)－埋蔵文化財とイデオロギー－
- 第29回 考古学と現代社会(4)－危機に立つ制度－
- 第30回 まとめ

**【成績評価の方法】**

受講生数などを確認した上で1回目の講義で指示する。

**【参考文献】**

別途指示する。

**【備考】**

<08生>のみ履修可



科目名	クラス	講義区分
公的扶助論 <秋集>		
瀧澤 仁 唱	4 単位	

#### 【講義概要】

- 1 現代社会と公的扶助
  - 1) 公的扶助理念の発達
  - 2) 概念と範囲
  - 3) 役割と意義
- 2 低所得問題対策の概要
- 3 生活保護制度のしくみ
  - 1) 目的
  - 2) 基本原理
  - 3) 保護の原則
  - 4) 保護の種類と内容
  - 5) 保護の機関と実施体制及び財源
  - 6) 保護施設の種類
  - 7) 被保護者の権利及び義務
- 4 生活保護の最近の動向
- 5 生活保護法及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
  - 1) 組織・専門職
  - 2) 連携のあり方

#### 【学習目標】

- 1 現代社会における公的扶助の理念と意義について理解させる。
- 2 生活保護制度のしくみと近年の動向について理解させる。
- 3 生活保護制度及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方について理解させる。

#### 【講義計画】

- 第1回 ガイダンス  
講義の目的 ①制度を知る ② 概念をきちんとおさえる  
③社会科学的方法の見方を養う ④試験準備 社会福祉主事任用資格取得ならびに社会福祉学科学生は社会福祉士および精神保健福祉士受験資格認定
- 第2回 「社会保障」の意味 社会福祉と社会保障
- 第3回 社会保険の意味 保険に関する言葉の定義
- 第4回 国家扶助の意味 社会保険の限界、国家扶助の役割
- 第5回 公衆衛生・医療及び社会福祉の意味
- 第6回 権利とはなにか 契約の意味
- 第7回 社会保障の権利 権利と権利意識、基本的人権
- 第8回 生存権の意味 罪刑法定主義、生存権の意味の歴史的変遷
- 第9回 日本国憲法第25条の意味と解釈 生存権の法的性格
- 第10回 生活保護法の原理① 国家責任の原理、無差別平等の原理
- 第11回 生活保護法の原理② 最低生活保障の原理、保護の補正性の原理
- 第12回 生活保護法の原則① 申請保護の原則、基準及び程度の原則
- 第13回 生活保護法の原則② 必要即応の原則、世帯単位原則
- 第14回 生活保護の種類・内容および方法 扶助と加算、保護の方法
- 第15回 生活保護施設 保護施設の種類、保護施設の義務
- 第16回 被保護者の権利 三つの権利の内容
- 第17回 被保護者の義務 五つの義務の内容
- 第18回 生活保護の水準 MB方式、エンゲル方式、格差縮小方式、水準均衡方式
- 第19回 生活保護の運営実施体制 法定受託事務と自治事務、生活保護の実施体制
- 第20回 生活保護と訴訟① 不服申立ての期間、申請から不服申立てまでの流れ
- 第21回 生活保護と訴訟② 判決の読み方
- 第22回 生活保護と訴訟③ 行政訴訟の種類
- 第23回 生活保護と訴訟④ 行政訴訟の種類、法律用語解説
- 第24回 生活保護に関わる事件と判決① 朝日訴訟
- 第25回 生活保護に関わる事件と判決② 朝日訴訟
- 第26回 生活保護に関わる事件と判決③ 朝日訴訟
- 第27回 生活保護に関わる事件と判決④ 生活保護費等を原資とする預貯金の収入認定
- 第28回 生活保護に関わる事件と判決⑤ 生活保護費等を原資とする預貯金の収入認定
- 第29回 生活保護に関わる事件と判決⑥ 生活保護費等を原資とする預貯金の収入認定
- 第30回 試験

#### 【成績評価の方法】

試験 100% レポート 0% 出席 0%  
論述式筆記試験

#### 【教科書】

制度改正が多く、適当な教科書が間にあわないので、授業開始後に別途指示します。

#### 【参考文献】

より詳しく調べたい方は、社会福祉小六法（2009年版、出版社はどこでもよい）又は『社会福祉六法 2009（平成21）年版』（新日本法規）

必要に応じて一部条文はコピーしてわたしますので、特別に専門的な学習のために必要な方以外は購入する必要はありません。

科目名 クラス 講義区分	
高齢者福祉論 A <春>	
秦 康 宏	2単位

**【講義概要】**

1. 高齢者の生活実態と福祉需要
2. 高齢者福祉制度の発展過程
3. 介護保険制度、その他関連制度

高齢者福祉論は、制度、法律が多いです。これだけややこしいということは、利用者やご家族にとっては、なおさらのことです。自分が説明する立場になった時のことを想像しながら、理解を深めてください。出来るだけ事例や経験を交えてお話しします。

**【学習目標】**

高齢者福祉の歴史、老人福祉法、介護保険制度と関連省令、新介護予防給付、地域包括支援センター、地域支援事業、施設サービスと居宅サービス、介護支援サービス、地域密着型サービス、有料老人ホーム、高齢者虐待防止法、日常生活自立支援事業、成年後見制度、高齢者関連諸施策、後期高齢者医療制度、少子高齢者の現状と将来予測を中心に学ぶ。

**【講義計画】**

- 第1回 オリエンテーション  
高齢者の生活実態と社会情勢、福祉・介護事情
- 第2回 高齢者福祉制度の発展過程
- 第3回 介護保険のしくみ①
- 第4回 介護保険のしくみ②
- 第5回 介護保険のしくみ③・介護報酬
- 第6回 介護保険における組織及び団体の役割と実際
- 第7回 介護保険における専門職の役割と実際-ケアマネジャー
- 第8回 介護保険におけるネットワークと実際
- 第9回 老人福祉法①
- 第10回 老人福祉法②
- 第11回 高齢者虐待①
- 第12回 高齢者虐待②
- 第13回 バリアフリー新法
- 第14回 高齢者の住居の安定確保に関する法律
- 第15回 まとめ

**【成績評価の方法】**

試験 60% レポート 20% 出席 20%  
毎回の授業終了時のフィードバックレポートの提出により、レポート点と出席点をつける。提出はひとつずつ行うこと。

**【教科書】**

村川浩一・黒田研二・坪山孝・松井奈美 編 高齢者福祉 第一法規出版  
教科書だけでなく、プリントやビデオ等の補助教材も多く使用します。

**【参考文献】**

老人福祉論 社会福祉学習双書、全国社会福祉協議会  
国民の福祉の動向 厚生統計協会  
他、適宜、紹介する

**【備考】**

<02~08生>は読替一覧参照の事。

科目名 クラス 講義区分	
高齢者福祉論 C <秋>	
秦 康 宏	2単位

**【講義概要】**

新介護予防給付、地域包括支援センター、地域支援事業、施設サービスと居宅サービス、介護支援サービス、地域密着型サービス、有料老人ホーム、日常生活自立支援事業、成年後見制度、高齢者関連諸施策、後期高齢者医療

**【学習目標】**

高齢者福祉の体系的理解

**【講義計画】**

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 新介護予防給付
- 第3回 地域包括支援センター
- 第4回 地域支援事業
- 第5回 施設サービス
- 第6回 居宅サービス
- 第7回 地域密着型サービス
- 第8回 介護支援サービス
- 第9回 有料老人ホーム
- 第10回 日常生活自立支援事業
- 第11回 成年後見制度
- 第12回 後期高齢者医療制度
- 第13回 事例①
- 第14回 事例②
- 第15回 まとめ

**【成績評価の方法】**

試験 60% レポート 20% 出席 20%  
毎回フィードバックレポート記入

**【教科書】**

必要に応じて、プリントを配布します。購入の必要はありません。

**【参考文献】**

適時紹介

**【備考】**

<02~08生>は読替一覧参照の事。

科目名	クラス	講義区分
コース演習 I 01 <通期>		
中野瑞彦	4単位	

**【講義概要】**

本講義は中国ビジネスキャリアコースの1回生向け演習である。春学期は大学生活一般や大学での全体的な勉強方法を中心に学習する。秋学期は中国に関わる社会経済事情を中心に学習する。いずれもグループワークを中心に進める。

**【学習目標】**

2回生秋学期の中国留学研修に向け、現地での勉強を充実したものとするために、留学に必要な中国の社会・経済・政治事情を一通り身に付けることを目標とする。

**【講義計画】**

- 第1回 大学生活入門①中国ビジネスキャリアコースについて
- 第2回 大学生活入門②大学での勉強・生活のしかた
- 第3回 大学生活入門③図書館オリエンテーション
- 第4回 大学生活入門④情報センター・オリエンテーション
- 第5回 中国入門①中国の社会を知る-1
- 第6回 中国入門①中国の社会を知る-2
- 第7回 中国入門②中国の生活を知る-1
- 第8回 中国入門②中国の生活を知る-2
- 第9回 中国入門③中国の文化を知る-1
- 第10回 中国入門③中国の文化を知る-2
- 第11回 中国入門④中国の経済を知る-1
- 第12回 中国入門④中国の経済を知る-2
- 第13回 夏季フィールドワークの準備
- 第14回 夏季フィールドワークの準備
- 第16回 中国入門④中国の経済を知る-3
- 第17回 中国入門④中国の経済を知る-4
- 第18回 中国入門④中国の経済を知る-5
- 第19回 中国入門⑤中国の政治を知る-1
- 第20回 中国入門⑤中国の政治を知る-2
- 第21回 フィールドワーク報告会準備-1
- 第22回 フィールドワーク報告会準備-2
- 第23回 フィールドワーク報告会準備-3
- 第24回 フィールドワーク報告会準備-3
- 第25回 留学研修準備 1回生でやっておくべきこと-1
- 第26回 留学研修準備 1回生でやっておくべきこと-2
- 第27回 留学研修準備 1回生でやっておくべきこと-3
- 第28回 まとめ

**【成績評価の方法】**

試験 20% レポート 20% 出席 60%  
出席と授業での積極性を評価の中心に据える。

**【教科書】**

初回時に指示する。内容に応じ、適宜プリントを配布する。

**【参考文献】**

特になし。

科目名	クラス	講義区分
コース演習 I 02 <通期>		
中野瑞彦	4単位	

**【講義概要】**

本講義は中国ビジネスキャリアコースの1回生向け演習である。春学期は大学生活一般や大学での全体的な勉強方法を中心に学習する。秋学期は中国に関わる社会経済事情を中心に学習する。いずれもグループワークを中心に進める。

**【学習目標】**

2回生秋学期の中国留学研修に向け、現地での勉強を充実したものとするために、留学に必要な中国の社会・経済・政治事情を一通り身に付けることを目標とする。

**【講義計画】**

- 第1回 大学生活入門①中国ビジネスキャリアコースについて
- 第2回 大学生活入門②大学での勉強・生活のしかた
- 第3回 大学生活入門③図書館オリエンテーション
- 第4回 大学生活入門④情報センター・オリエンテーション
- 第5回 中国入門①中国の社会を知る-1
- 第6回 中国入門①中国の社会を知る-2
- 第7回 中国入門②中国の生活を知る-1
- 第8回 中国入門②中国の生活を知る-2
- 第9回 中国入門③中国の文化を知る-1
- 第10回 中国入門③中国の文化を知る-2
- 第11回 中国入門④中国の経済を知る-1
- 第12回 中国入門④中国の経済を知る-2
- 第13回 夏季フィールドワークの準備
- 第14回 夏季フィールドワークの準備
- 第16回 中国入門④中国の経済を知る-3
- 第17回 中国入門④中国の経済を知る-4
- 第18回 中国入門④中国の経済を知る-5
- 第19回 中国入門⑤中国の政治を知る-1
- 第20回 中国入門⑤中国の政治を知る-2
- 第21回 フィールドワーク報告会準備-1
- 第22回 フィールドワーク報告会準備-2
- 第23回 フィールドワーク報告会準備-3
- 第24回 フィールドワーク報告会準備-3
- 第25回 留学研修準備 1回生でやっておくべきこと-1
- 第26回 留学研修準備 1回生でやっておくべきこと-2
- 第27回 留学研修準備 1回生でやっておくべきこと-3
- 第28回 まとめ

**【成績評価の方法】**

試験 20% レポート 20% 出席 60%  
出席と授業での積極性を評価の中心に据える。

**【教科書】**

初回時に指示する。内容に応じ、適宜プリントを配布する。

科目名 クラス 講義区分		
コース演習Ⅱ <通期>		
唐	成	4単位

**【講義概要】**

春学期は秋学期に実施される中国留学研修に向けて、十分な準備をすることが演習の内容であり、目標でもある。具体的には企業分析の方法、中国留学研修に関する各種オリエンテーションを実施していく。また秋学期は中国の産業と企業について学んでいく。そして、この過程を通じて、レポート執筆やプレゼンテーションの技法についても習熟度を高める。

**【学習目標】**

この演習を通して、中国留学研修の成果を最大限に引き出すことである。

**【講義計画】**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 企業の目標と企業分析
- 第3回 企業評価の手法と分析のステップ
- 第4回 定性分析（業界構造の分析）
- 第5回 競争戦略
- 第6回 Value Chain 分析
- 第7回 財務データの見方（Ⅰ）
- 第8回 財務データの見方（Ⅱ）
- 第9回 財務比率分析（Ⅰ）
- 第10回 財務比率分析（Ⅱ）
- 第11回 会計方針と企業分析
- 第12回 総合的な評価
- 第13回 中国留学研修に関する各種オリエンテーション（Ⅰ）
- 第14回 中国留学研修に関する各種オリエンテーション（Ⅱ）
- 第15回 中国留学研修に関する各種オリエンテーション（Ⅲ）
- 第16回 中国の産業研究（電子産業）
- 第17回 中国の産業研究（自動車産業）
- 第18回 中国の産業研究（鉄鋼産業）
- 第19回 中国の産業研究（石油化学産業）
- 第20回 中国の産業研究（物流業）
- 第21回 中国企業の研究
- 第22回 中国の国有企業
- 第23回 中国の民営企業
- 第24回 中国の外資系企業
- 第25回 中国の日系企業
- 第26回 レノボと華為の研究
- 第27回 中国企業のSWOT分析
- 第28回 研究報告会Ⅰ
- 第29回 研究報告会Ⅱ
- 第30回 まとめ

**【成績評価の方法】**

演習への参加（40%）  
 各種の課題への取り込み（40%）  
 演習への貢献度（20%）

**【備考】**

テキストなどの詳細は第1回目に説明する。

科目名 クラス 講義区分		
コース中国語ⅠA 01 <春>		
坂井田	夕起子	1単位

**【講義概要】**

現代中国の社会や文化、経済状況などに関する文章を用いながら、中国語の文法事項や正しい発音を確認しつつ講読を行う。また、現代中国に関する映像資料などを用いて、中国語のヒヤリング練習なども行う。

**【学習目標】**

現代中国の社会、文化、経済を学ぶ上で必要な中国語の語彙と文法を習得し、中国語レベルのステップアップをはかる。

**【講義計画】**

- 第1回 簡単なテストを行い、受講生の中国語レベルを確認する。  
その上で教科書の指定や補助教材の選定を行う。
- 第2回 テキスト第一課。発音練習と文法確認。
- 第3回 テキスト第一課。練習問題。
- 第4回 テキスト第二課。発音練習と文法確認。
- 第5回 テキスト第二課。練習問題。
- 第6回 テキスト第三課。練習問題。
- 第7回 テキスト第三課。発音練習と文法確認。
- 第8回 テキスト第四課。練習問題。
- 第9回 テキスト第四課。発音練習と文法確認。
- 第10回 テキスト第五課。練習問題。
- 第11回 テキスト第五課。発音練習と文法確認。
- 第12回 テキスト第六課。練習問題。
- 第13回 テキスト第六課。発音練習と文法確認。
- 第14回 まとめテスト
- 第15回 期末テスト

**【成績評価の方法】**

試験 80% レポート 0% 出席 20%

**【教科書】**

授業の中で指定する。

**【参考文献】**

『why? にこたえるはじめての中国語文法書』相原茂ほか、同学社。

科目名 クラス 講義区分	
コース中国語 I A 02 <春>	
坂井田 夕起子	1 単位

**【講義概要】**

中国語の基礎的な発音と、発音記号（ピンイン）の習得を目指し、中国語学習の基礎的な訓練を行う。

**【学習目標】**

基本的な単語と基礎的な文法事項を習得し、簡単な中国語の挨拶、応対表現や会話ができるようになることを目指す。中国の漢字（簡体字）に慣れ、入門段階における文法習得を目指す。

**【講義計画】**

- 第1回 中国語についての説明。学習する中国語（北京語）とその他の中国国内方言や簡体字の歴史、中国語の特徴である声調（四声）についての説明。発音記号（ピンイン）の読み方と発音練習。
- 第2回 母音と子音の発音練習。四声の練習。聞き取り練習。
- 第3回 発音練習。簡単な中国語の単語を発音記号と簡体字を覚えながら行う。
- 第4回 テキスト第一課。発音練習と文法説明。
- 第5回 テキスト第一課。暗誦練習と簡単な作文練習。
- 第6回 テキスト第二課。発音練習と文法説明。
- 第7回 テキスト第二課。暗誦練習と簡単な作文練習。
- 第8回 テキスト第三課。発音練習と文法説明。
- 第9回 テキスト第三課。暗誦練習と簡単な作文練習。
- 第10回 テキスト第四課。発音練習と文法説明。
- 第11回 テキスト第四課。暗誦練習と簡単な作文練習。
- 第12回 テキスト第五課。発音練習と文法説明。
- 第13回 テキスト第五課。暗誦練習と簡単な作文練習。
- 第14回 復習テスト
- 第15回 まとめのテスト

**【成績評価の方法】**

試験 50% レポート 30% 出席 20%

**【教科書】**

尹景春・竹島毅 中国語はじめての一步 白水社

**【参考文献】**

『中日辞典』『日中辞典』（ともに小学館）。または電子辞書。

科目名 クラス 講義区分	
コース中国語 I B 01 <春>	
陳 梅 隠	1 単位

**【講義概要】**

中国の経済発展によって中国を訪れる観光客が増えている一方、日本企業の進出も増えてきている。言うまでもなく、中国人や中国企業と接触する際に言葉での交流は重要であるが、相手国の風習や、習慣および考え方についての大体の理解があれば、観光であってもビジネスであってもプラスとなるだろう。従って、この授業では発音と基本的な文法を勉強するとともに、中国の文化、風習を紹介し、学生を中心とする会話の練習を取り込みたい。

**【学習目標】**

まず、中国の文化、風習についての紹介を通じて中国語の学習に対する興味を起し、単語の量を増やすことを望んでいる。その同時に日常生活でよく使う会話を身につけることを目標とする。

**【講義計画】**

- 第1回 発音(I) 最初の3週間は週に一回の授業を利用し、発音を基本とした授業を行う予定である。よく知られているように、中国語の発音は多種類であり、アクセントも厳しく分かれているため、発音が似ていながら意味がまったく異なる言葉がたくさんある。従って、この授業では簡単な会話の練習を加え3回(3週)をかけて発音の授業を進めたい。
- 第2回 発音(II)
- 第3回 発音(III)
- 第4回 会話(第一課)  
ヒアリング(第一課)
- 第5回 ・小テスト  
・会話(第二課)
- 第6回 ・小テスト  
・会話(復習)  
・ヒアリング(第二課)
- 第7回 ・小テスト  
・会話(第三課)
- 第8回 ・小テスト  
・会話(復習)  
・ヒアリング(第三課)
- 第9回 ・小テスト  
・会話(第四課)
- 第10回 ・小テスト  
・会話(復習)  
・ヒアリング(第四課)
- 第11回 ・小テスト  
・会話(第五課)
- 第12回 ・小テスト  
・会話(復習)  
・ヒアリング(第五課)
- 第13回 ・小テスト  
・会話(第六課)
- 第14回 ・小テスト  
・会話(復習)  
・ヒアリング(第六課)

**【成績評価の方法】**

春学期の定期試験60%、出欠席10%、授業中の参加態度10%、小テストなど20%

**【教科書】**

尹 景春・竹島 毅 中国語はじめての一步 白水社

か  
行

科目名 クラス 講義区分	
コース中国語 I B 02 <春>	
陳 梅 隠	1 単位

**【講義概要】**

中国の経済発展によって中国を訪れる観光客が増えている一方、日本企業の進出も増えてきている。言うまでもなく、中国人や中国企業と接触する際に言葉での交流は重要であるが、相手国の風習や、習慣および考え方についての大体の理解があれば、観光であってもビジネスであってもプラスとなるだろう。従って、この授業では発音と基本的な文法を勉強するとともに、中国の文化、風習を紹介し、学生を中心とする会話の練習を取り込みたい。

**【学習目標】**

まず、中国の文化、風習についての紹介を通じて中国語の学習に対する興味を起し、単語の量を増やすことを望んでいる。その同時に日常生活でよく使う会話を身につけることを目標とする。

**【講義計画】**

- 第1回 発音(I)最初の3週間は週に一回の授業を利用し、発音を基本とした授業を行う予定である。よく知られているように、中国語の発音は多種類であり、アクセントも厳しく分かれているため、発音が似ていながら意味がまったく異なる言葉がたくさんある。従って、この授業では簡単な会話の練習を加え3回(3週)をかけて発音の授業を進めたい。
- 第2回 発音(II)  
 第3回 発音(III)  
 第4回 会話(第一課)  
 ヒアリング(第一課)  
 第5回 ・小テスト  
 ・会話(第二課)  
 第6回 ・小テスト  
 ・会話(復習)  
 ・ヒアリング(第二課)  
 第7回 ・小テスト  
 ・会話(第三課)  
 第8回 ・小テスト  
 ・会話(復習)  
 ・ヒアリング(第三課)  
 第9回 ・小テスト  
 ・会話(第四課)  
 第10回 ・小テスト  
 ・会話(復習)  
 ・ヒアリング(第四課)  
 第11回 ・小テスト  
 ・会話(第五課)  
 第12回 ・小テスト  
 ・会話(復習)  
 ・ヒアリング(第五課)  
 第13回 ・小テスト  
 ・会話(第六課)  
 第14回 ・小テスト  
 ・会話(復習)  
 ・ヒアリング(第六課)

**【成績評価の方法】**

春学期の定期試験60%、出欠席10%、授業中の参加態度10%、小テストなど20%

**【教科書】**

尹 景春・竹島 毅 中国語はじめての一步

科目名 クラス 講義区分	
コース中国語 II A 01 <秋>	
坂井田 夕起子	1 単位

**【講義概要】**

現代中国の社会や文化、経済状況などに関する文章を用いながら、中国語の文法事項や正しい発音を確認しつつ講読を行う。また、現代中国に関する映像資料などを用いて、中国語のヒヤリング練習なども行う。

**【学習目標】**

現代中国の社会、文化、経済を学ぶ上で必要な中国語の語彙と文法を習得し、中国語レベルのステップアップをはかる。

**【講義計画】**

- 第1回 前期の復習テスト。  
 第2回 テキスト第七課、発音練習と文法確認。  
 第3回 テキスト第七課、練習問題。  
 第4回 テキスト第八課、発音練習と文法確認。  
 第5回 テキスト第八課、練習問題。  
 第6回 テキスト第九課、発音練習と文法確認。  
 第7回 テキスト第九課、練習問題。  
 第8回 テキスト第十課、発音練習と文法確認。  
 第9回 テキスト第十課、練習問題。  
 第10回 テキスト第十一課、発音練習と文法確認。  
 第11回 テキスト第十一課、練習問題。  
 第12回 テキスト第十二課、発音練習と文法確認。  
 第13回 テキスト第十二課、練習問題。  
 第14回 まとめテスト  
 第15回 期末テスト

**【成績評価の方法】**

試験 80% 出席 20%

**【教科書】**

授業の中で指定する。

**【参考文献】**

『why?にこたえるはじめての中国語文法書』相原茂ほか、同学社。

科目名 クラス 講義区分	
コース中国語Ⅱ A 02<秋>	
坂井田 夕起子	1単位

**【講義概要】**

中国語の発音練習と基本例文の暗誦によって、基本的な単語（700語程度）と基本的な文法事項を学習し、作文の練習を繰り返す。

**【学習目標】**

中国語の正しい発音と基本的な単語（700語程度）を身につけ、中国語での簡単な会話ができるようになること、そして初級文法の習得により、簡単な中国語作文ができるようになることを目指す。

**【講義計画】**

- 第1回 テキスト1～5課までの復習テスト。  
テキスト第六課の発音練習と文法説明。
- 第2回 テキスト第六課の暗誦練習と作文練習。
- 第3回 テキスト第七課の発音練習と文法説明。
- 第4回 テキスト第七課の暗誦練習と作文練習。
- 第5回 テキスト第八課の発音練習と文法説明。
- 第6回 テキスト第八課の暗誦練習と作文練習。
- 第7回 テキスト第九課の発音練習と文法説明。
- 第8回 テキスト第九課の暗誦練習と作文練習。
- 第9回 テキスト第十課の発音練習と文法説明。
- 第10回 テキスト第十課の暗誦練習と作文練習。
- 第11回 テキスト第十一課の発音練習と文法説明。
- 第12回 テキスト第十一課の暗誦練習と作文練習。
- 第13回 テキスト第十二課の発音練習と文法説明。
- 第14回 テキスト第十二課の暗誦練習と作文練習。
- 第15回 まとめテスト

**【成績評価の方法】**

試験 50% レポート 30% 出席 20%

**【教科書】**

尹景春・竹島毅 中国語はじめての一步 白水社

**【参考文献】**

『中日辞典』『日中辞典』（ともに小学館）。または電子辞書。

科目名 クラス 講義区分	
コース中国語Ⅱ B 01<秋>	
陳 梅 隠	1単位

**【講義概要】**

春学期と同様に発音と基本的な文法を勉強するとともに、中国の文化、風習を紹介し、中国のことをもっと理解してもらいたい。

**【学習目標】**

春学期を通じて勉強した中国語の基礎知識の上で、さらに単語の量を増やし、日常生活でよく使う会話を身につけることを秋学期の学習目標とする。

**【講義計画】**

- 第1回 ・復習・小テスト  
・会話（第七課）
- 第2回 ・小テスト  
・会話（復習）  
・ヒアリング（第七課）
- 第3回 ・小テスト  
・会話（第八課）
- 第4回 ・小テスト  
・会話（復習）  
・ヒアリング（第八課）
- 第5回 ・小テスト  
・会話（第九課）
- 第6回 ・小テスト  
・会話（復習）  
・ヒアリング（第九課）
- 第7回 ・小テスト  
・会話（第十課）
- 第8回 ・小テスト  
・会話（復習）  
・ヒアリング（第十課）
- 第9回 ・小テスト  
・会話（第十一課）
- 第10回 ・小テスト  
・会話（復習）  
・ヒアリング（第十一課）
- 第11回 ・小テスト  
・会話（第十二課）
- 第12回 ・小テスト  
・会話（復習）  
・ヒアリング（第十二課）
- 第13回 ・小テスト  
・会話（第十三課）
- 第14回 ・小テスト  
・会話（復習）  
・ヒアリング（第十三課）

**【成績評価の方法】**

秋学期の定期試験60%、春学期の定期試験20%、出欠席10%、小テスト等10%

**【教科書】**

尹 景春・竹島 毅 中国語はじめての一步

か  
行

科目名 クラス 講義区分		
コース中国語ⅡB 02<秋>		
陳	梅 隠	1 単位

**【講義概要】**

春学期と同様に発音と基本的な文法を勉強するとともに、中国の文化、風習を紹介し、中国のことをもっと理解してもらいたい。

**【学習目標】**

春学期を通じて勉強した中国語の基礎知識の上で、さらに単語の量を増やし、日常生活でよく使う会話を身につけることを秋学期の学習目標とする。

**【講義計画】**

- 第1回 ・復習・小テスト  
・会話（第七課）
- 第2回 ・小テスト  
・会話（復習）  
・ヒアリング（第七課）
- 第3回 ・小テスト  
・会話（第八課）
- 第4回 ・小テスト  
・会話（復習）  
・ヒアリング（第八課）
- 第5回 ・小テスト  
・会話（第九課）
- 第6回 ・小テスト  
・会話（復習）  
・ヒアリング（第九課）
- 第7回 ・小テスト  
・会話（第十課）
- 第8回 ・小テスト  
・会話（復習）  
・ヒアリング（第十課）
- 第9回 ・小テスト  
・会話（第十一課）
- 第10回 ・小テスト  
・会話（復習）  
・ヒアリング（第十一課）
- 第11回 ・小テスト  
・会話（第十二課）
- 第12回 ・小テスト  
・会話（復習）  
・ヒアリング（第十二課）
- 第13回 ・小テスト  
・会話（第十三課）
- 第14回 ・小テスト  
・会話（復習）  
・ヒアリング（第十三課）

**【成績評価の方法】**

秋学期の定期試験60%、春学期の定期試験20%、出欠席10%、小テスト等10%

**【教科書】**

尹 景春・竹島 毅 中国語はじめの一步

科目名 クラス 講義区分		
コース中国語ⅢA 01<春>		
神 道	美映子	1 単位

**【講義概要】**

中国語を1年間勉強した学生に対して、発音と文法の再確認をし、表現力の向上を目指すものである。1年次で習得した約700語を復習しながら、さらに語彙量を増やし、コミュニケーション能力及び読解力をつけるように授業を進める。

**【学習目標】**

中国語検定試験3級合格程度の語学力を習得することを目指す。

**【講義計画】**

- 第1回 第1課 就要～了；因为～，所以…；据说～；也就是说～；好像～
- 第2回 第2課 如果～；是～的；被；肯定
- 第3回 第3課 一～就…；哪儿～；要命；尽管；让
- 第4回 第4課 得～；怎么；光～；要不然；恐怕
- 第5回 第5課 之所以～，是因为…；打算～；不但～，而且…；尽可能；不是～就是…
- 第6回 第6課 别～；由；或者；简直；好在
- 第7回 中間小テスト
- 第8回 第7課 极了；即使～，也…；对～来说；要是～；刚～就…
- 第9回 第8課 却；几乎；有点儿；岂不是～吗？；无论～，都…
- 第10回 第9課 看上去～；～是～，…；干脆
- 第11回 第10課 不是～吗？；不是～，而是…；除了～以外；既～又…；不如～
- 第12回 第11課 连～都/也…；难怪；差点儿～；并；虽然～，但是…
- 第13回 第12課 既然～，就…；终于；越～越…；～看～看…；与其～，不如…
- 第14回 総復習
- 第15回 期末テスト

**【成績評価の方法】**

試験 80% 出席 20%  
定期試験により評価するが、出席状況、小テスト、授業中態度などを加味する。

**【教科書】**

黄漢青・杉野元子 大学生のための現代中国12話・Ⅱ 白帝社

**【参考文献】**

適宜指示する。



科目名	クラス	講義区分
コース中国語Ⅲ A 02 <春>		
神 道 美映子	1 単位	

**【講義概要】**

中国語を1年間勉強した学生に対して、発音と文法の再確認をし、表現力の向上を目指すものである。1年次で習得した約700語を復習しながら、さらに語彙量を増やし、コミュニケーション能力及び読解力をつけるように授業を進める。

**【学習目標】**

中国語検定試験3級合格程度の語学力を習得することを目指す。

**【講義計画】**

- 第1回 第1課 就要～了；因为～，所以…；据说～；也就是说～；好像～
- 第2回 第2課 如果～；是～的；被；肯定
- 第3回 第3課 一～就…；哪儿～；要命；尽管；让
- 第4回 第4課 得～；怎么；光～；要不然；恐怕
- 第5回 第5課 之所以～，是因为…；打算～；不但～，而且…；尽可能；不是～就是…
- 第6回 第6課 别～；由；或者；简直；好在
- 第7回 中間小テスト
- 第8回 第7課 极了；即使～，也…；对～来说；要是～；刚～就…
- 第9回 第8課 却；几乎；有点儿；岂不是～吗？；无论～，都…
- 第10回 第9課 看上去～；～是～，…；干脆
- 第11回 第10課 不是～吗？；不是～，而是…；除了～以外；既～又…；不如～
- 第12回 第11課 连～都/也…；难怪；差点儿～；并；虽然～，但是…
- 第13回 第12課 既然～，就…；终于；越～越…；～看～看…；与其～，不如…
- 第14回 総復習
- 第15回 期末テスト

**【成績評価の方法】**

試験 80% 出席 20%  
定期テストにより評価するが、出席状況、小テスト、授業態度などを加味する。

**【教科書】**

黄漢青・杉野元子 大学生のための現代中国12話・II 白帝社

**【参考文献】**

適宜指示する。

科目名	クラス	講義区分
コース中国語Ⅲ B 01 <春>		
徐 羽 厚	1 単位	

**【講義概要】**

日常生活の中の場面を想定して、話す、聞く、書く、読むという4つの側面から繰り返すの練習を通じて、総合的な中国語力を伸びさせたい。

**【学習目標】**

一年後期使った教科書を引き続いて使用することによって、中国語の基本文法を完全にマスターし、単語の量も更なる増やせます。講義の内容を通じて、中国についての知識より多く吸収し、中国語の読む力と話す能力を向上させ、専門である中国ビジネスの勉強により広い基礎を築きたい。

**【講義計画】**

- 第1回 一年後期の内容の回顧
- 第2回 飲食(1)
- 第3回 飲食(2)
- 第4回 聞き取り練習、会話練習
- 第5回 チケット購入(1)
- 第6回 チケット購入(2)
- 第7回 聞き取り練習、会話練習
- 第8回 授業のまとめ、中間小テスト
- 第9回 病院に行く
- 第10回 郵便局
- 第11回 聞き取り練習、会話練習
- 第12回 宴会
- 第13回 聞き取り練習、会話練習
- 第14回 復習、期末テスト

**【成績評価の方法】**

普段の授業様子、中間小テスト、出席率、そして期末テストの成績を総合する評価

**【教科書】**

遠藤雅裕、陳、柴 中国語リスニング道場 朝日出版社

科目名 クラス 講義区分	
コース中国語ⅢB 02<春>	
徐 羽 厚	1単位

**【講義概要】**

日常生活の中の場面を想定して、話す、聞く、書く、読むという4つの側面から繰り返すの練習を通じて、総合的な中国語力を伸びさせたい。

**【学習目標】**

一年生の時に学んだ知識に基づいて、更なる中国語の語学力を向上させ、特に本格的なビジネス会話をしっかりと身につける事が目標とする。

**【講義計画】**

- 第1回 挨拶、教室用語。
- 第2回 数字の練習
- 第3回 数字と量辞
- 第4回 金額と買い物
- 第5回 両替
- 第6回 時間
- 第7回 中間テスト
- 第8回 場所と位置
- 第9回 道を尋ねる(1)
- 第10回 道を尋ねる(2)
- 第11回 入国
- 第12回 宿泊
- 第13回 飲食
- 第14回 期末テスト

**【成績評価の方法】**

普段の授業様子、中間小テスト、出席率、そして期末テストの成績をまとめて総合的な評価

**【教科書】**

遠藤雅裕、陳、柴 中国語リスニング道場 朝日出版社

科目名 クラス 講義区分	
コース中国語ⅣA 01<秋>	
神 道 美映子	1単位

**【講義概要】**

中国語を1年半勉強した学生に対して、正確な発音の徹底と表現力のさらなる向上を目指すものである。ⅢAとⅣAを通じて1年間で新たに600語～700語程度の語彙をマスターできるようにする。

**【学習目標】**

中国語検定試験4級合格程度の語学力習得を目指す。

**【講義計画】**

- 第1回 助動詞、主述述語文、目的語主述句
- 第2回 原因・理由の表現、逆接の表現、語気助詞
- 第3回 連動文、疑問詞の用法
- 第4回 完了・変化の表現、副詞
- 第5回 結果補語(1)、仮定の表現
- 第6回 存現文、フレーズ主語、継続の表現
- 第7回 中間小テスト
- 第8回 状態の持続、部分否定
- 第9回 方向補語、使役の表現、疑問詞の不定用法
- 第10回 可能補語、強調表現
- 第11回 目的の表現、推測の表現
- 第12回 結果補語(2)、受身の表現
- 第13回 介詞の用法
- 第14回 総復習
- 第15回 期末テスト

**【成績評価の方法】**

試験 80% 出席 20%

定期試験により評価するが、出席状況、小テスト、授業中の提出物を加味する。

**【教科書】**

最初の授業で指定する。併せてプリントを配布する。

**【参考文献】**

適宜指示する。

科目名	クラス	講義区分
コース中国語ⅣA 02<秋>		
神 道 美映子	1単位	

**【講義概要】**

中国語を1年半勉強した学生に対して、正確な発音の徹底と表現力のさらなる向上を目指すものである。ⅢAとⅣAを通じて1年間で新たに600語～700語程度の語彙をマスターできるようにする。

**【学習目標】**

中国語検定試験4級合格程度の語学力習得を目指す。

**【講義計画】**

- 第1回 助動詞、主述述語文、目的語主述句
- 第2回 原因・理由の表現、逆接の表現、語気助詞
- 第3回 連動文、疑問詞の用法
- 第4回 完了・変化の表現、副詞
- 第5回 結果補語(1)、仮定の表現
- 第6回 存現文、フレーズ主語、継続の表現
- 第7回 中間小テスト
- 第8回 状態の持続、部分否定
- 第9回 方向補語、使役の表現、疑問詞の不定用法
- 第10回 可能補語、強調表現
- 第11回 目的の表現、推測の表現
- 第12回 結果補語(2)、受身の表現
- 第13回 介詞の用法
- 第14回 総復習
- 第15回 期末テスト

**【成績評価の方法】**

試験 80% 出席 20%  
定期試験により評価するが、出席状況、小テスト、授業中の提出物を加味する。

**【教科書】**

最初の授業で指定する。併せてプリントを配布する。

**【参考文献】**

適宜指示する。

科目名	クラス	講義区分
コース中国語ⅣB 01<秋>		
徐 羽 厚	1単位	

**【講義概要】**

ビジネスの内容を含む教材を求めるというニーズに対応し、中国ビジネスに役立つ人材の育成を目標とする講義です。

**【学習目標】**

一年生のとき学んだ知識に基づいて、さらなる中国語の語学力を向上させ、特に本格的なビジネス会話力をしっかりと身につけることが目標である。そのために：

生徒たちのニーズに応じて、ビジネス内容を丁寧に説明します。バラエティに富む反復練習で学習をサポートします。ビジネス上必要である基本会話も随時補充します。

**【講義計画】**

- 第1回 オフィスを訪ねる
- 第2回 レストランに食事に行く
- 第3回 銀行にて
- 第4回 商談をする
- 第5回 宴会のセッティングをする
- 第6回 有給休暇をとる
- 第7回 フライトを待つ
- 第8回 アフターサービス
- 第9回 コンテナ輸送
- 第10回 待遇
- 第11回 病院にて
- 第12回 国際入札
- 第13回 財務
- 第14回 復習、テスト

**【成績評価の方法】**

出席、毎時間の質問、小テストと期末考査の総合的な評価

**【教科書】**

三瀧正道、金子伸一著「やさしいビジネス中国語」(朝日出版社)

**【参考文献】**

「最新実用中国語辞典」(隆美出版社)2002年 または 電子辞典

**【備考】**

授業前の予習とそのあとの復習が必要です。授業中積極的に会話練習を参加することが大事です。二次次終了時まで中国語検定3級合格を目標とする。

か  
行

科目名 クラス 講義区分		
コース中国語ⅣB 02<秋>		
徐 羽 厚	1単位	

**【講義概要】**

ビジネスの内容を含む教材をもとめるというニーズに対応し、中国ビジネスにやく立つ人材の育成を目標とする講義です。

**【学習目標】**

一年生のとき学んだ知識に基づいて、さらなる中国語の語学力を向上させ、特に本格的なビジネス会話をしっかりと身につけることが目標である。そのために：  
生徒たちのニーズに応じて、ビジネス内容を丁寧に説明します  
バラエティに富む反復練習で学習をサポートします。  
ビジネス上必要である基本会話も随時補充します。

**【講義計画】**

- 第1回 オフィスを訪ねる
- 第2回 レストランに食事に行く
- 第3回 銀行にて
- 第4回 商談をする
- 第5回 宴会のセッティングをする
- 第6回 有給休暇をとる
- 第7回 フライトを待つ
- 第8回 アフターサービス
- 第9回 コンテナ輸送
- 第10回 待遇
- 第11回 病院にて
- 第12回 国際入札
- 第13回 財務
- 第14回 復習、テスト

**【成績評価の方法】**

出席、毎時間の質問、小テストと期末考査の総合的な評価

**【教科書】**

三瀧正道、金子伸一著「やさしいビジネス中国語」朝日出版社

**【参考文献】**

「最新実用中国語辞典」(隆美出版社) 2002年 または 電子辞典

**【備考】**

授業前の予習とそのあとの復習が必要です。授業中積極的に会話練習を参加することが大事です。二次終了時まで中国語検定3級合格を目標とする。

科目名 クラス 講義区分		
国際会計論〔2〕 <春>		
柴 理梨亜	2単位	

**【講義概要】**

国際化、グローバル化がますます進む現在の環境では会計もその影響に対応していかなければならない。1973年に日本も参加して発足した国際会計基準委員会が、現代のニーズに対応するためにその組織改革を実施した。そして、グローバル・スタンダードを目指す国際財務報告基準は世界中で認識されるようになってきた。

日本でも民間の会計基準設定機関「企業会計基準委員会 (ASBJ)」が設置され、2005年から国際財務報告基準との調和化または統合化に向けた協議が開始された。

本講義では、グローバル・スタンダードとなった国際財務報告基準とその歩みについて学びます。

**【学習目標】**

国際財務報告基準の役割や必要性を理解することに加えて、実際に企業が発行している英文財務諸表を利用しながら多くの英語の会計専門用語を身につけ、英文財務諸表の内容を理解することが学習目標である。  
受講するに当たって、簿記と会計の基礎知識と興味が必要条件。

**【講義計画】**

- 第1回 国際化時代のモノサシとしての会計
- 第2回 日本の会計ビッグバン
- 第3回 IASCの歩みと組織改革
- 第4回 世界共通のモノサシを求めて
- 第5回 IASBと新体制
- 第6回 国際会計基準と国際財務報告基準
- 第7回 エンロン事件とSOX法
- 第8回 EUの会計戦略
- 第9回 会計基準の国際的収斂
- 第10回 IASBとFASB
- 第11回 IASBとASBJ
- 第12回 国際会計基準の将来像
- 第13回 英文財務諸表を読む
- 第14回 英文財務諸表を読む
- 第15回 まとめ

**【成績評価の方法】**

試験 40% レポート 30% 出席 30%  
出席、平常点とテストの結果を総合的に評価する。  
授業中に積極的に発言することが大切。

**【教科書】**

橋本 尚 2009年 国際会計基準の衝撃 日本経済新聞

**【参考文献】**

徳賀芳弘 (著) 「国際会計論相違と調和」 中央経済社

飯田信夫 (著) 国際会計教育協会 (編) 「国際財務報告基準 (IFRS) 入門日本基準との違いをみる」 財経詳報社